

增訂
新海律法令



始



特110
7241



訂增

新海事法令

大正十四年七月

發賣元

境川文庫

大正
全14. 7 16
內交

目次

○商法海商編	一
○船舶法	三八
○船舶法施行細則	四〇
○同法一部ヲ樺太ニ行フ件	四三
○船鑑札規則	四七
○船舶積量測度法	五七
○船舶積量測度規程	六〇
○船舶積量測度心得	六二
○船舶檢查法	一〇三
○船舶檢查法施行細則	一〇四

○目次

○目次

○船舶検査規程……………104

○船舶滿載吃水線法……………110

○船舶滿載吃水線法施行細則……………115

○船舶滿載吃水線規程……………131

○船員法……………163

○船員法施行細則……………178

○船員證明規則……………182

○同規則ノ證明ヲ當分行ハサル件……………185

○水夫適任證書交付規則……………192

○海員懲戒法……………210

○船舶職員法……………219

○船舶職員法施行細則……………214

○船舶職員試驗規程……………221

○同試驗期日……………200

○同認定學校及水産講習所……………201

○同認定機關工場……………201

○海上衝突豫防法……………204-1

○大阪府水路取締規則……………206

○同汽船航運營業取締規則……………212

○大阪港規程……………213

○水難救護法……………214

○目次

○水難救護法施行細則……………921

○海港檢疫法……………924

○海港檢疫法施行細則……………929

○船員最低年齡及健康證明書法……………931

○同施行期日及施行規則……………932

○火藥類船舶運送及貯藏規則……………936

○管海官廳事務取扱市町村長……………938

○遞信局管轄區域……………939

○船舶検査施行地……………941

○船舶検査規程中改正……………946

◆商法海商編

明治三十二年三月公布
明治四十四年五月改正
(法律)

第一章 船舶及船舶所有者

- 第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
- 本編ノ規定ハ端船其他機權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス
- 第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス
- 第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス
- 前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス
- 第五百四十一條 船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス
- 第五百四十三條 差押及假差押ハ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限リニ在ラス

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其
 他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當リ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終リニ於テ船舶
 運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ
 委付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限リニ在ラス
 前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス
 第五百四十四條ノ二 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス
 第五百四十五條 船舶所有者カ債務者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキ
 ハ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス
 第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持
 分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス
 第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價額ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔ス
 ルコトヲ要ス
 第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決
 議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己
 ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人
 ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決
 議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價額ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ
 辨償スル責ニ任ス
 第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ終リニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價額ニ應シテ之
 ヲ爲ス
 第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承
 諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得
 但船舶管理人ハ此限ニ在ラス
 第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
 船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス
 船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス
 第五百五十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶
 ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 一 船舶ノ讓渡、委付若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
 二 船舶ヲ保險ニ付スルコト
 三 新ニ航海ヲ爲スコト
 四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
 五 借財ヲ爲スコト
 船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滯ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取り又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船舶ノ貸借借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其効力ヲ生ス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテ其効力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、傭船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ル、コトヲ得

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ル、コトヲ得

第五百六十條 船長カ己ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ檢査スルコトヲ要ス

第五百六十二條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス
一 船舶國籍證書
二 海員名簿

三 屬具目錄
 四 航海日誌
 五 旅客名簿
 六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
 七 税關ヨリ交付シタル書類
 前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條 船長ハ己ムコトヲ得ル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ船積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備カ終リタルトキハ遲滯ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條 船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト
- 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價格ノ四分ノ三ニ超ユルトキ
前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終リタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス
第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應シテ給料ノ増加ヲ

請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス
海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
 - 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
 - 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 - 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得
- 第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキ

ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一ヶ月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
 - 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 - 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ
- 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス
海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

トヲ得ス

第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 船舶カ沈没シタルコト
 - 二 船舶カ修繕スルコトノ能ハサルニ至リタルコト
 - 三 船舶カ捕獲セラレタルコト
- 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第五百九十條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ニ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十一條 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條

船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ル、コトヲ得ス

第五百九十三條

法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十四條

船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ

特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十五條

船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ又通知ヲ發スルコトヲ要ス

此場合ニ於テハ船積期間内ニ限リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得
第五百九十六條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ
請求ヲ爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送品ノ全部ヲ外運送品ノ全部ヲ船積セサル
ニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供ス
ルコトヲ要ス

第五百九十七條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ
船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十八條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送品ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲ス
コトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルト
キハ運送品ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ
備船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタル
トキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲サ、リシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノ
ト看做ス

第五百九十九條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨
ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ル、コトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノ、外運送品ノ價格ニ應シ共
同海損、又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送品ノ全部ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メ
タル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲ニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非
サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備
船者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送品ノ全部
ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送品ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及
ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス
第六百二條 箇々ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指
圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ
於テハ荷送人ハ運送品ノ全部ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得
タル運送品ハ之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スル
コトヲ要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品
ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通
知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌
日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキ
トキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス
個々ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲
滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ
運送賃附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損又ハ救助ノ爲
メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス
第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコト
ヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルト
キハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞ナク備船者又ハ荷送人
ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡
ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條 期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其
陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リ發航港若クハ航
海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ
其期間ハ之ヲ算入セス第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船
積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判
所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行
使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得
シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又荷送人ニ
對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲ス
コトヲ要ス

第六百十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ傭船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

- 一 第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由
- 二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ傭船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ傭船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條 第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ傭船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

傭船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滯ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及ヒ第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇々ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ケタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキ雖モ傭船者又ハ荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送賃ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
- 二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
- 三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ傭船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滞ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ名稱及ヒ國籍
 - 二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名
 - 三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號
 - 四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號
 - 五 荷受人ノ氏名若クハ商號
 - 六 船積港
 - 七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港
 - 八 運送貨
 - 九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數
 - 十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
- 第六百二十三條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ

謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコト得ス

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其効力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲サ、ルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第二節 旅客運送

第六百三十條 記名ノ乗船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第六百三十一條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所

有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送賃ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百三十三條 旅客カ乗船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又

ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコ

トヲ得

發航後ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

ス

第六百三十五條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海

ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送賃ノ四分ノ一ヲ請求スルコ

トヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其撰擇ニ從ヒ運送賃ノ

四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十六條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅

客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ

他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了

ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送賃ヲ支拂フ

コトヲ要ス

第六百三十八條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法

ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十九條 第三百五十一條第一項、第三百五十二條、第五百九

十一條、第五百九十二條、第六百十四條及ヒ第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送

ニ之ヲ準用ス

第五百九十三條及ヒ第六百十七條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第六百四十條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シ

タル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海 損

第六百四十一條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積

荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル

求償ヲ妨ケス

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト

運送賃ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十三條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ

減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第六百四十五條 船舶ニ備附ケタル武器船員ノ給料船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十六條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ル、コトヲ得ス

第六百四十七條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損

ノ爲メ支拂フコトヲ要セサリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十八條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 第六百四十二條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ

償金中ヨリ救助料及ヒ一部減失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶所有者平

分シテ之ヲ負擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス
第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 海難救助

第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス

先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス

第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ

付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス

人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ仕拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス

第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立テヲ爲サントスルトキハ其告示アリタル後異議ノ申立テ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海管廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

管海管廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得

船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作製ヲ命スルコトヲ得

船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得

第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス
 一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ
 二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラス強ヒテ之ニ從事シタルトキ
 三 救助シタル物品ヲ隠匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ
 第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス
 前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス
 第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判
 上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 救助料ニ關スル訴ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言
 渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其効力ヲ有ス
 第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務
 ヲ負フ
 第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ
 引渡シタル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス
 第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルト
 キハ時効ニ依リテ消滅ス

第六章 保 險

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害
 ノ填補ヲ以テ其目的トス
 海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規
 定ヲ適用ス
 第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中
 保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責任
 有ス
 第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責任
 有ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險
 價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム
 第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ
 保險價額トス
 第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ
 保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス
 第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ
 保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス
 第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷
 物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百六十條

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

第六百六十一條

海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名
- 二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條

保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ノ變更シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付

キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事

由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス
到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條

被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又航路ヲ變更シ其他著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホサ、リシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條

保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第六百六十五條

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條

保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知りタルトキハ遲滯ナク

保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百六十七條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ

惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ

必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付

シタル場合ニ於テ備船者荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リ

テ生シタル損害

四 水先案内料、入港料燈臺料檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タ

シタル通常ノ費用

第六百六十八條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシ

テ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フ

コトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メ

タル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ

其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ

對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルト

キハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險

價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ

第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス

但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金

額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ沈没シタルトキ

二 船舶ノ行方カ知レサルトキ

三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ

五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサル

モノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス
第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得
保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得
第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フル

コトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス
保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送賃ノ上ニ先取特權ヲ有ス
一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費

- 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
- 四 水先案内料及ヒ挽船料
- 五 救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
- 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
- 八 船舶カ其實買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲サ、ル場合ニ於テ其實買又ハ製造並ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艤裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
- 九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權
- 第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス
- 第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ
- 同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セサリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

- 先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ
- 第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ノト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ
- 第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス
- 先取得權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サ、リシトキハ先取特權ハ消滅ス
- 第六百八十五條 船舶債權者ノ先取得權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス
- 第六百八十六條 第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス
- 第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得
- 船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ
- 船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得
- 第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス
- 第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

◆ 船 舶 法

明治三十二年三月公布
同 三十八年三月改正 (法律)

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
 - 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
 - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
 - 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
 - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
- 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶トス
- 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス
- 第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
- 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

- 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
 - 前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス
 - 第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ航行セシムルコトヲ得ス
 - 第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス
 - 第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス
 - 第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス
 - 第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 - 第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨ

○ 船 舶 法

リ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事
實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シ
タルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二
週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若ハ毀損シ又
ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ
請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由ヨリ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到
着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到
着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍
ヲ喪失シ若ハ第二十條ニ掲ケル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタ
ル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ
要ス船舶ノ存否カ六个月分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲サ、ルトキハ管海官廳ハ一个月内ニ

之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲サ、ルトキハ職權ヲ以
テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域
内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クル
コトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ク
ルコトヲ得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六个月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船
舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間滿了前ト雖モ
其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及ヒ端舟
其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附 則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ供用ニスル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

船舶法施行細則

明治三十二年六月公布
大正十年三月迄數度改正 (省令)

第一章 總則

- 第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ
機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス
主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス
- 第二條 淺濶船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做サス
- 第二條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ
 - 一 肋骨ヲ有スル船舶
 - 二 機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶
 - 三 日本形ニ非サル帆裝ヲ有スル船舶
- 前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ
- 第三條 船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル
船籍港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

モノニ限ル

- 第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得
 - 一 試運轉ノトキ
 - 二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ
 - 三 正當ノ事由アルトキ
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲クルコトヲ得
 - 一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル
 - 二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ
 - 三 進水ノトキ
 - 四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ
- 第六條 船舶ノ積量若クハ登錄ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得
- 第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章 積量ノ測度

○船舶法施行細則

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セントスル者ハ附録第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 積量ノ測度又ハ改測ハ船舶検査施行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査施行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

外國ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該管廳之ヲ指定ス

第十條 積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スル者ハ測度又ハ改測ヲ受ケルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條 削除

第十二條 管海官廳ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附録第二號書式ノ船舶件名書及別ニ定ムル書式ノ船舶積量測度表ヲ調製セシムヘシ

第十三條 外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ニ記載スル事項ト既ニ申請者ニ交付シ第八條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル書面アルトキハ之ヲ還付スヘシ

管海官廳ハ積量ノ改測ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ニ記載スル事項ト既ニ登録シタル事項トヲ對照シ其變更ニ係ル事項ヲ申請者ニ通知スヘシ

第十四條 外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ當該官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第十五條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ在ル船舶ニ付積量ノ測度又ハ改測ノ申請アリタル場合ニ於テ第九條第一項但書ノ事由ニ依リ船舶ヲ其管轄區域内マテ航行セシムルコト能ハサルトキハ該官廳ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十條及第十二條ノ二ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書及船舶積量測度表ヲ送付スヘシ

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十七條 削除

第十八條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

○船舶法施行細則

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルトキハ同時ニ船舶積量測定
表ノ謄本ヲ交付スヘシ
前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測定表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請
ヲ爲ス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ謄
本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ總噸數百
噸以上ノ汽船及總噸數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿
ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 船名
- 五 船籍港
- 六 甲板ノ層數

七 船質

八 帆船ノ帆裝

九 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長

十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅

十一 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深

十二 總噸數

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

船首樓ノ噸數

船橋樓ノ噸數

船尾樓ノ噸數

甲板室ノ噸數

艙口ノ超過噸數

機關室ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

十三 控除噸數

船員常用室ノ噸數

荷足水艙ノ噸數

○船舶法施行細則

機關室ノ噸數

帆船ノ帆庫ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

十四 登簿噸數

十五 汽機ノ種類及數

十六 推進器ノ種類及數

十七 造船地

十八 造船者

十九 進水ノ年月

二十 原名

二十一 所有者ノ氏名又ハ名稱住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一 總噸數

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

二 控除噸數

船員常用室ノ噸數

機關室ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅

三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深

四 積石數

第十七條ノ三 前條ノ規定ニ依リ登錄シタル信號符字ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ

差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一 前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ

二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ

三 所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ

○船舶法施行細則

管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管
海官廳ニ移送シ該船舶ノ船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登録ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登録ヲ移
ス

第二十一條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタ
ルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條ノ二第一項第三號第六號乃至第八號第十五號第十六號ノ事項ニ
變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申
請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附錄第二
號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所
有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添附シテ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前
條ノ登録ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢
報告書ノ交付ヲ受ケタルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條 第十七條ノ二第一項第三號第六號第九號乃至第十六號第二項各號又ハ第
三項各號ノ事項ニ付第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ
爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳
ニ之ヲ差出スヘシ

第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證ス
ル登記ノ謄本、抄本又ハ登記證書ヲ添附シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル
場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政區畫、其名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタ
ル行政區畫、其名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ
變更アリタルトキ亦同シ

第二十七條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスルモノハ申
請書ニ其理由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登
記證書ヲ添ヘ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル
場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶原簿ヲ閉鎖ス

第二十七條ノ二 船籍港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ通知ナキ船
舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ

○船舶法施行細則

當該管海官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ其登記所ニ通知スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
- 二 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル原因
- 四 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日

第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限り船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變更ノ登録ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ更ニ之ヲ請受ケントスルトキ亦同シ

第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付アリタルトキハ遲滯ナク舊證書ヲ返還スヘシ

第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ差出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ヘ差出スヘシ

第三十七條ノ二 假船舶國籍證書ノ書式ハ附錄第四號書式ニ依ル

○船舶施行法細則

第三十八條 假船舶國籍證書ノ有効期間ハ其船舶ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第三十九條 假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第四十條 假船舶國籍證書ハ其效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ

船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第四十一條ノ二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ
英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條ノ三 第四十二條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

第四十二條ノ四 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニハ此限ニ在ラス

第五章 國旗及船舶ノ標示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

- 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
- 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
- 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
- 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
- 五 法令ニ別段ノ定アルトキ

第四十四條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

- 一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ

○船舶法施行細則

- 國字ヲ以テ記スルコト
- 二 中央ノ船梁ニ船舶ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト
- 三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲メ船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト
- 四 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除シタル室及場所ニハ見易キ所ニ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト
- 特殊ノ構造ヲ有スル爲メ前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ付テハ検査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得
- 第四十五條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタル方法ニ依リ船尾ニ船名及船籍港名、船梁ニ船舶ノ番號及積石數ヲ標示スヘシ
- 第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久キニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ

第六章 登録税、手数料及旅費

第四十八條 登録税法ノ規定ニ從ヒ登録税ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録納付書ヲ登録ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

- 一 第十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第一號
- 二 船籍港以外ノ登録事項ノ變更ニ依リ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第四號
- 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第三號
- 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第二號
- 第四十九條 登録税法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條ノ各號ノ事項ノ變更ヲ以テ每一箇トス
- 第五十條 登録税納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數又ハ積石數及稅金額ヲ記載シ登録税法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ
- 第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ
 - 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
 - 二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱
 - 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日
 - 四 登録稅額
- 第五十條ノ三 船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶積量測度

○船舶法施行細則

手数料表ニ定ムル測度手数料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ測度ヲ要セサルモノトナリタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手数料ヲ徴收ス改則ノ場合ニ付亦同シ

第五十條ノ四 前條ノ測度手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ測度手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ測度手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船、機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セサル帆船ノ區別、總噸數、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別及手数料額ヲ記載スヘシ又一部改測ノ場合ニシテ量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲモ附記スヘシ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手数料ヲ納付スヘシ

- 一 船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ 一枚ニ付 貳拾錢
- 二 船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ 一回ニ付 貳拾錢
- 三 汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 貳圓
- 四 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 四圓
- 五 帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 壹圓
- 六 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 貳圓

前項ノ手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第五十二條 登録稅又ハ手数料納付ノ爲メ書類ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第五十三條 検査官吏カ船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ出張スルトキハ船舶所有者ハ常該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ

船舶検査法施行細則第七十八條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ臨檢ヲ受クルトキハ其旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

第五十三條ノ二 本則ノ規定ニ依ル手数料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徴收セス

第七章 罰 則

第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則 略ス

船舶積量測度手数料表

○船舶法施行細則

測度種類	新規定測度		全部改測		改測
	汽船及汽機	汽船及汽機	汽船及汽機	汽船及汽機	
二十噸以上五十噸以下	七圓	七圓	五圓	五圓	二圓
五十噸以上一百噸以下	十圓	十圓	七圓	七圓	
一百噸以上二百噸以下	十五圓	十五圓	十圓	十圓	三圓
二百噸以上三百噸以下	二十圓	二十圓	十五圓	十五圓	
三百噸以上五百噸以下	廿五圓	廿五圓	二十圓	二十圓	五百噸以上
五百噸以上一千噸以下	三十圓	三十圓	廿五圓	廿五圓	
一千噸以上二千噸以下	四十圓	四十圓	三十圓	三十圓	五圓
二千噸以上三千噸以下	五十圓	五十圓	四十圓	四十圓	
三千噸以上四千噸以下	六十圓	六十圓	五十圓	五十圓	十圓
四千噸以上六千噸以下	七十圓	七十圓	六十圓	六十圓	
六千噸以上八千噸以下	八十圓	八十圓	七十圓	七十圓	十圓
八千噸以上一萬噸以上	百圓	百圓	八十圓	八十圓	

備考

- 一 量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手数料ヲ納付スヘシ
- 二 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數十石ヲ以テ一噸ノ割合ニ換算シ料金ヲ算出ス
- 三 第五十條ノ第三項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手数料ヲ納付スヘシ
- 四 外國ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ其ノ手数料ハ本表及前各號ノ規定ニ依リ算出タル金額ノ四倍トス

第一號書式

船舶積量測度申請書

汽(帆)船何丸

一 船籍港 何府縣何郡市何町村
 二 積量 總噸數約何噸又ハ積石數約何石
 三 造船地 何府縣何郡市何町村
 四 造船者 何某又ハ何會社
 五 進水ノ年月 大正又ハ西曆 年 月 日
 六 原名 何々
 七 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分 何府縣何郡市何町村何番地 何某又ハ何會社 某所
 八 測度ヲ受ケントスル場所 何府縣何郡市何町村何番地 某所
 右今般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付積量測度相成度關係書類何通相添此段及申請候也
 年 月 日

住所

何 某印

管海官廳宛

備者
 一 船名ニハ振假名ヲ附記スヘシ
 二 郡市町村名、氏名及名稱ニハ讀方ノ明瞭ナル場合ノ外振假名ヲ附記スヘシ
 三 外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ

○船舶法施行細則

第二號書式

船舶件名書

汽(帆)船何丸

- 四 原名ノ項ニハ外國船カ日本ノ國籍ニ入リタル場合ニ在リテハ國籍取得前ノ最近ノ船名、船舶法第二十條ニ掲ケル船舶カ總噸數ニ付テハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ依リテハ測度申請前ノ最近ノ船舶ニ付テハ記載スヘシ
- 五 第十七條ノ二第二項及第三項ニ掲ケル船舶ニ付テハ造船者ヲ記載スルコトヲ要セス
- 一 甲板ノ層數 何層
- 二 船質 鋼、鐵、木又ハ木鐵等
- 三 帆船ノ帆裝 三橋バーク、二橋トツアスルスクリーナー、二橋スクリーナー、二橋スループ等
- 四 總噸數 何噸
- 五 汽機ノ種類及數 何噸何々
- 六 推進器ノ種類及數 何噸何々
- 七 進水ノ年月 外車又ハ螺旋推進器何箇
- 八 年 大正又ハ西曆 年 月
- 右 日某所ニ於テ臨檢シタル所前記ノ通ニ有之候也

備考

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第十七條ノ二第三項ノ規定ニ依リ本書中ノ事項ヲ變更又ハ省略スヘシ

官 氏 名 印

第三號書式甲(船舶法施行細則第十七條ノ二第一項ニ掲ケル船舶ニ用ユルモノ) 竪一尺五分 横八寸五分



船 船 國 籍 證 書

船舶法施行細則

番號	信字號	種類	船籍港	造船地	造船者	進水ノ年月	甲板ノ層數	船名	
積 量									
總噸數	上甲板下	上甲板上蔽圍シタル場所	船首樓	船橋樓	船尾樓	甲板室	槍口ノ超過	機關室	其他ノ場所
控除噸數	船員當用室	荷足水艙	機關室	帆船ノ帆庫	其他ノ場所	登簿噸數			



船國籍證書

第三號書式丙(船舶法施行細則第十七條ノ二第三項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ)

竪七寸五分
横五寸五分

番號	種類	船籍港

○船舶法施行細則

尺 度 及 積

船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ
至ル船底水平ノ長……………
船體最廣部ニ於テ外板ノ内面
ヨリ内面ニ至ル幅……………
腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨ

第三號書式乙(船舶法施行細則第十七條ノ二第二項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ)

竪九寸
横七寸

船

番號	信號字號	種類	船籍港

進水ノ月	甲板ノ數	船質	帆船ノ裝	汽機ノ種類及數

總噸數	上甲板下	上甲板ト蔽圍	シタル場所	控除噸數	船員常用室	機關室	其他ノ場所	登簿噸數

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス
日本帝國
管海官廳名印

船質	帆船ノ裝	汽機ノ種類及數	機噐ノ種類及數

尺 度	積 量



船舶國籍證書

造船地	進水ノ年 月	船名	者有所	量
				積石數 リ航ノ上面ニ至ル深

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルニトテ證明ス
 年月日
 日本帝國
 管海官廳名印

第四號書式甲(船舶法施行細則第十七條ノ二第一項及第二項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ) 横六寸 豎八寸

種類	船籍港	船質	帆船ノ裝	帆帆ノ種	汽機ノ種	積	總噸數	控除噸數

假船舶國籍證書

造船地	進水ノ年 月	船名	層甲板ノ數	度	尺	種油推器ノ類及數	者有所	量
								登簿噸數

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ 年月 日迄效力
 ナ有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到着シタルトキハ其效力ヲ失フ
 年月日
 日本帝國
 管海官廳名印

第四號書式乙(船舶法施行細則第十七條ノ二第三項ニ掲クル船舶ニ用ユルモノ) 横七寸五分 横五寸五分

種類	度	尺

船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ
 至ル船底水平ノ長
 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面

○船舶法施行細則

假船籍國船舶證書

船名	船籍港	及積量
	造船地	
者有所	進水ノ年月	ヨリ内面ニ至ル幅……… 腰當梁ノ申中央ニ於テ其上面ヨ リ航ノ上面ニ至ル深……… 積石數………
	本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ 年 月 日迄效力 ヲ有スルモ其以前ニテ船籍港ニ到着シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ	

日本帝國
管海官廳名印

第五號書式

假船舶國籍證書交付申請書
汽(帆)船何丸

- 一 船籍港 何府縣何郡市何町村
- 二 造船地 何府縣何郡市何町村
- 三 進水ノ年月 大正又ハ西曆 月
- 四 甲板ノ層數 何層
- 五 船質 鋼、鐵、木又ハ木鐵等
- 六 帆船ノ帆裝 三橋バーク、二橋トツブ スクナー、二橋スクナー、一橋スルーア等
- 七 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長 何呎何々
- 八 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅 何呎何々
- 九 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深 何呎何々
- 十 總噸數 何噸何々
- 十一 控除噸數 何噸何々
- 十二 登簿噸數 何噸何々
- 十三 汽機ノ種類及數 單式、二聯成、三聯成、四聯成、「タービン」、發動機何箇
- 十四 推進器ノ種類及數 外車又ハ螺旋推進器何箇
- 十五 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分 何府縣何郡市何町村番地

○船舶法施行細則

右令般新造致(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付假船國籍證書交付相成度船舶法第十五條(又ハ第十六條)及船舶法施行細則第三十七條ノ規定ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

年月日

何 某印

管海官廳宛

備考

石數ヲ以テ積量表示スル船舶ニ付テハ第四號書式ニ掲クル事項ニ依リ本書式中ノ事項ヲ變更又ハ省略スヘシ

勅令第九十三號

船舶法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

大正十三年四月十八日公布同日ヨリ施行

船舶法第一條乃至第三條第二十二條及第二十三條ノ規定ハ之レヲ樺太ニ施行ス但シ同法第三條ニ規定スル主務大臣ノ職務ハ樺太長官之ヲ行フ

船舶鑑札規則

明治四十年五月公布
大正十一年六月改正

(省令)

- 第一條 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ
 - 一 總噸數五噸未満又ハ積石數五十石未満ノ帆船
 - 二 端舟其ノ他權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權權ヲ以テ運轉スル舟
- 第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ
- 管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務官其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測量ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ
- 第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測定スヘシ但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニヨリ船舶ノ積量ノ測定ヲナシタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ
- 第四條ノ二 船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道府縣名及船鑑札番號ヲ標示スヘシ
- 特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當

○船鑑札規則

ト認ムル方法ニヨリ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其他久シキニ耐ユル方法ニヨリ高幅共四吋以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名ハ國字、船鑑札番號ハ亞刺比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス場合ニ於テハ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之レヲ省略スヘシ

標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第八條 甲地方官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄区域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ甲地方官廳ニ轉籍

ヲ申請スヘシ

第九條 行政區劃變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄区域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄区域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タス船鑑札臺帳ノ謄本積量測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

第十條 名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合、又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間以内ニ事由ヲ説明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月分明ナラサルトキ

三

船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ又前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ニ疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノ、所有者ハ

管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ム

ルトキハ積量ノ改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條 第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ

第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ大正十一年十二月三十一日マテ本

令ノ施行ヲ猶豫ス

第一號書式略ス

第二號書式略ス

◆船舶積量測度法

大正三年公布 (法律)

第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フット」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス

第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶

ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス

第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上蔽

圍シタル場所ノ噸數ヲ、甲板三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ

量噸甲板上各甲板ノ間噸數及上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸

數トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノ、噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セ

ス

一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所

二 機關室、操舵室、賄室及出入口室

三 採光通風ニ要スル場所及便所

四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキ

モノト認ムル場所

前項ニ掲クル機關室ノ噸數ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相

○船舶積量測度法

當ト認ムルトキハ其全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スル事ヲ得
甲板ヲ備ヘサル船舶ニアリテハ艀端以下ノ噸數ニ艀端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ
加ヘタルモノヲ總噸數トス

第四條 總噸數ヨリ左ニ掲クル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但總噸數
ニ算入セサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス

一 船員常用室及海圖室
二 荷足水艙

三 機關室

四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セ
ラル、場所

五 水夫長倉庫

六 帆船ノ帆庫

七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各項ニ掲クルモノニ準スヘキ
モノト認ムル場所

第五條 前二條ニ掲クル場所ノ限域ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ左ノ割
合ニ依リ之ヲ定ム

一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ超

エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニア
リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ
總噸數ノ百分ノ三十七

二 前項ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ
噸數ニ其四分ノ三、外車ヲ備フル船舶ニアリテハ機關室ノ噸數ニ其二分ノ一
ヲ加ヘタルモノ、但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ニ相
當ト認ムルトキハ前項ノ割合ニ依ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登錄噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ機關
室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ
百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登簿噸數ノ算定ニ付キ總噸數ヨリ控除スヘキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ千分ノ二
十五ヲ超ユルトキハ之ヲ千分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度
シ回漕船ニアリテハ船梁以下ノ船艙ノ石數、其他ノモノニ在リテハ艀端以下ノ船艙
ノ石數ヲ積石數トス

第九條 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム
附則略ス

船舶積量測度規程

大正三年七月公布 (省令)

第一章 總 則

第一條 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ單位トシ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ尺ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ但シ分長點及分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スヘシ面積、容積及噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入シ石數ヲ算定スルニハ單位ニ止メ單位下ハ四捨五入スヘシ

第二條 量噸甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板上ニ沿ヒ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ
- 二 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離

第三條 分長點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

量 噸 甲 板 ノ 長	等 分 數
五十呎以下	四
五十呎ヲ超エ百二十呎以下	六
百二十呎ヲ超エ百八十呎以下	八
百八十呎ヲ超エ二百二十五呎以下	十
二百二十五呎ヲ超ユルモノ	十二

第四條 分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

- 一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底内底板肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ
- 二 前號ノ船舶ノ二重底内底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ内底板迄ト縁板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

○船舶積量測度規程

三 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條 分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等	分	數
	二重底内底板カ凸凹ナル時	其ノ他ノ場合	
十六呎以下	五	四	
十六呎ヲ超ユルモノ	七	六	

副分深點ト稱スルハ二重底内底板カ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條 分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側内張板ノ内面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船側内張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側内張板ノ内面ト看做ス

第七條 遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第八條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル場所ノ限域ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外検査官吏ノ相當ト認ムル所ニ依ル

第九條 形狀正整ナル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ内面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十條 第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雜ナルモノニ在リテハ検査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條 特殊ノ構造ヲ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ付テハ遞信大臣ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章 量噸甲板下ノ噸數及舷端以下ノ噸數

第十二條 分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

- 一 分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ
- 二 分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ五分深點以上ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ五分深點及

○船舶積量測度規程

第六分深點ノ幅ノ四分ノ一ト幅分深點ヲ上端ヨリ數ヘ其ノ第一及第三ノ幅ト
第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ各部ヲ加フヘ
シ

三分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第七分深點以上ノ部
分ニ付テハ第一號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定
ヲ準用シ各部分ヲ加フヘシ

第十三條 量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於
ケル橫截面積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面
積ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シテ
得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十四條 船首尾艙ヲ除キ二重底内底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船舶ノ量噸甲板下ノ
噸數ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ量噸甲板ノ長ヲ測リ之ヲ
第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點ノ等
分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ加ヘタル
モノヲ百ニテ除スヘシ但シ各區分毎ニ測リタル量噸甲板ノ長カ三十呎以下ナルトキ
ハ之ヲ二等分シ各分長點ニ於ケル橫截面積ヲ算定シ中央ノ面積ノ四倍ニ前後ノ面積
ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ該區分ノ容積ヲ算定スヘシ

第十五條 鋤鏈溝ヲ有スル淺濶船ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ鋤鏈溝ノ末端隔
壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各
容積ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ

第十六條 艀端以下ノ噸數ヲ算定スルニハ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スル方法ヲ準用ス
ヘシ

第三章 量噸甲板上ノ噸數及艀端以上ノ噸數

第十七條 量噸甲板七各甲板間ノ噸數ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線
ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ量噸甲板ノ長ノ等
分數ニテ等分シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ内面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ
當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ
之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除ス
ヘシ

第十八條 上甲板及艀端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル
一 量噸甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場
所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル内面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四
倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ト平均ノ高トヲ乘シテ得タル容
積ヲ百ニテ除スヘシ
二 量噸甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル

場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ
第十九條 船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場
合ニ於テ上甲板ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルハ登簿噸數ヲ
減少スル結果ヲ生スル場合ニ限ル

前項ノ機關室ノ噸數ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所
ノ噸數ヲモ包含ス
第一項ノ機關室ノ噸數ノ一部トハ機關室ノ一部ニシテ甲板又ハ甲板ノ延長面及圍壁
ニ依リ區畫シタル場所ノ噸數ヲ謂フ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條 船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅三呎
以上高四呎以上(緣材ヲ附ストキハ其ノ高二呎以下)ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ
之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セ
ス但シ旅客ニ供用セラル、場合又ハ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側
ニ適當ノ排水口及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 遮浪甲板ト上甲板トノ間ノ場所ニシテ左ノ規定ニ適合スル部分ノ噸數ハ
之ヲ總噸數ニ算入セス但シ旅客ニ供用セラル、場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 遮浪甲板ニ長四呎以上幅同甲板ノ後部正艙口ノ幅ヨリ少カラサル常設閉鎖裝

置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有シ該口直下ノ兩舷側ニ適當ノ排水口ヲ設ケ且甲板間
ニ於テ適當ノ間隔ニ徑三吋半以上ノ排水孔ヲ備フルコト

二 前號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ後端ヲ船尾材ノ後面ヨリ船ノ長ノ二
十分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ、船首ニ設クルトキハ其ノ前端ヲ船首材ノ前
面ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ヨリ少カラサル距離ニ設クルコト

前項ノ船ノ長トハ量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水
平距離ヲ謂フ

三 第一號ノ甲板口ヲ船尾ニ設クルトキハ其ノ直下ノ甲板間ニ於テ該口ヨリ船首
ニ在ル横通隔壁ニハ前條ノ規定ニ依ル出入口二箇以上ヲ設クルコト

四 第一號ノ甲板口ノ緣材ノ高ハ甲板上平均十二吋ヲ超ヘサルコト又該口ノ周圍
ニハ之ヲ水密ニ閉鎖シ得サル様柵欄ヲ設クルコト

第二十二條 賄室トハ廚室及麵麩燒室ヲ謂フ
第二十三條 艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五以下
ナルトキハ之ヲ總噸數ニ算入セス
艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五ヲ超ユルトキハ
其ノ超過噸數ニ限リ之ヲ總噸數ニ算入ス

第二十四條 飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」、探海燈及燈塔
ニ供用セラル、場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス

○船舶積量測度規程

逕信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ同項第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章

登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

- 第二十五條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス
- 第二十六條 船員常用室トハ船長ノ專用スル諸室、海員ノ專用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局、廚室、麵麩燒室及便所竝以上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ
- 第二十七條 海圖室トハ海圖信號器具其ノ他航海用器具ニ供用セラル、場所ヲ謂フ
- 第二十八條 荷足水艙トハ二重底水艙ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セサル構造ヲ有スル水艙ヲ謂フ
- 第二十九條 荷足水艙ノ噸數ヲ算定スルニハ水艙ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長三十呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ三十呎ヲ超ユルトキハ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深十六呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ十六呎ヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條 機關室ノ噸數トハ第三十一條及第三十二條ニ掲クル場所ノ噸數ノ加ヘタルモノヲ謂フ

船舶所有者ノ申請ニ依リ上甲板上ノ機關室ノ噸數ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入シタルトキハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入スヘシ

第三十一條 機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂ト上甲板トノ間ノ場所上甲板上ノ場所及車軸隧道ノ噸數ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十二條 螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラル、場所ノ噸數ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十三條 機關室內ニ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ平均ノ長、幅、深ヲ乘シテ得タル容積ヲ機關室ノ容積ヨリ除去スヘシ

第三十四條 船舶積量測度法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ噸數カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

第三十五條 水夫長倉庫トハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

○船舶積量測度規程

第三十六條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ噸數ハ總噸數ニ應シ左表ニ掲クル控除噸數ヲ超ユルトキハ之ヲ該噸數ニ止ム但シ七十五噸ヲ超ユルコトヲ得ス

總噸數	噸數	控除噸數
百五十噸未滿	三噸	
百五十噸以上五百噸未滿	總噸數ノ百分ノ二	
五百噸以上千噸未滿	十噸	
千噸以上	總噸數ノ百分ノ一	

第三十七條 無線電氣機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機、「サーモタンク」及「コッフアードム」ニ供用セラル、場所ノ噸數ハ登簿噸數ノ算定ニ付キ總噸數ヨリ之ヲ控除スヘシ

遞信大臣ハ前項ニ掲クル場所ノ外船舶積量測度法第四條第七號ノ規定ニ依リ同條第一號乃至第六號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第六章 積石數

第三十八條

回漕船ノ船梁上ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船艙ノ上端ヲ境界トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ト船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ト船舷ノ内面ヨリ内面ニ至ル平均ノ幅トヲ乘シテ得タル容積ヲ十二テ除スヘシ

船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ上下及中間等分點ニ於テ平均ノ幅ヲ測リ其ノ深、幅ヲ平均シ此ノ平均ノ深、幅ト長トヲ乘シテ得タル容積ヲ十二テ除スヘシ

第三十九條

回漕船以外ノ船舶ノ船幅ノ石數ヲ算定スルニハ船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ船舷上端ヲ境界トシ深ヲ測リ又各深ノ上下及中間等分點ニ於テ平均ノ幅ヲ測リ其ノ深、幅ヲ平均シ此ノ平均ノ深、幅ト長トヲ乘シテ得タル容積ヲ十二テ除スヘシ

船舶積量測度心得

大正三年七月公布 (訓令)

第一章 總 則

- 第一條 船舶ノ積量ハ登記登録ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準トナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ
- 第二條 測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第三條 製造中ノ検査ヲ行フ船舶ニ付テハ成ルヘク適當ナル時期ニ於テ部々測度ヲ行ヒ測度由請アリタル場合ノ參考ニ供スヘシ
- 第四條 管海官廳ニ於テハ豫メ標準距離ヲ設定シ時々測度用卷尺ヲ之ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ
- 卷尺ヲ濕潤セシメタルトキハ之ヲ掃拭シ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ヲ以テ清拭スヘシ
- 第五條 下層甲板カ貨物艙又ハ横置燃料艙ニ於テ斷切スルトキハ該甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス
- 第六條 低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ該甲板ト平行シ

テ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス

第七條 船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ量噸甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ量噸甲板ノ直下ニ於ケル内張板ヲ謂フ
- 二 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ量噸甲板上ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ探ルモ妨ナシ
- 三 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ
- 三 船尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘシ
- 四 船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ
- 第八條 船首尾艙ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スルニ重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ
- 第九條 鐵鋼船ノ船底内張板及艙内船側内張板ノ厚カ三吋ヲ超ユルトキハ之ヲ三吋ト看做シ測ルヘシ
- 鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設クル内張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ
- 鐵鋼船ノ船底内張板下ノ横木ノ高ハ之ヲ内張板ノ厚ニ算入ス

○船舶積量測度心得

第十條 木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ探ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス
木船ノ梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ測ルヘシ

第十一條 船舶積量測度規程第六條第二項ニ掲クル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板又ハ「バツテン」ノ間隔カ一呎以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均ヲ、一呎ヲ超ユルトキハ其ノ厚ヲ全心距ニ等布シタルモノヲ探ルヘシ

第十二條 内張板ヲ備ヘサル船艙ノ深ハ二重底内底板、肋板、又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距四呎ヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

第十三條 艙内ニ内張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ内張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ探ルヘシ

第十四條 分深點カ「ボツス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ボツス」ヲ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ
第十五條 肋骨ノ深ニ階段アル船舶ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ探ルヘシ
肋骨一本置キニ肋骨ノ深ヲ異ニスル船舶ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條 二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ探リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅ヲ探ルヘシ

第十七條 二重底内底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル内底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ探ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ縁板ヨリ縁板ニ至ル水平距離ヲ測ルヘシ
二重底内底板カ船側ニ達スル場合ニ於テハ船側肋骨ヲ内底板ニ固着スル肘板ノ内縁ヲ前二項ノ縁板ノ位置ト看做ス

第十八條 船舶積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板ト縁板トノ高ノ差カ六吋未満ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ彎曲セサルトキハ副分深點ヲ設ケスシテ前條ニ準シ測度スルモ妨ナシ

第十九條 上甲板上蔽圍シタル場所及登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形狀複雑ナルモノニ在リテハ検査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り先ツ全容積ヲ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減シ其ノ場所ノ容積ヲ算定スルモ妨ナシ

第二十條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル副汽機トハ蒸汽唧筒及唧筒ト連結シタル測機ヲ謂フ

第二十一條 船舶積量測定規程第二十條及第二十一條ニ掲クル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總噸數ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ登簿噸數ヲ算定スル爲總噸數ヨリ控シ除タル場所ヲ旅客ニ供用スルトキハ移民船検査及臨時旅客検査ノ場合ト雖改測ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第二章 量噸甲板下ノ噸數及舷端以下ノ噸數

第二十二條

- 一 全通二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ニ一呎以下機關室ノ下部以外ノ二重底ニ六吋以下ノ階段アルモ區分測定ヲ爲スニ及ハス
- 二 車軸隨道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測定ヲ爲スニ及ハス
- 三 二重底ヲ備フル船舶ニシテ汽罐室ノ下部ノミニニ二重底内底板ヲ張ラサルカ又ハ普通肋板ヲ有スルトキハ區分測定ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル二重底ヲ備フルモノト看做シ測定スヘシ
- 四 普通肋板ノミヲ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋板ニ高低アルモ區分測定ヲ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高ヲ有スル普通肋板ヲ有スルモノト看做シ測定スヘシ
- 五 二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ハ二重底ノ高ノ低キ部

分ト同一區畫トシテ取扱フヘシ

第二十三條 漁船ノ生洲及浚渫船ノ泥艙ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入ス
前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測定ヲ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章 量噸甲板上ノ噸數及舷端以上ノ噸數

第二十四條 船舶積量測定規程第十七條ニ掲クル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於テ中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均ヲ謂フ

第二十五條 上甲板及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノト雖相連續セル圍壁ヲ有スルトキハ一區畫室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條 船舶積量測定規程第十八條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テハ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前端口内面ヨリ船尾ノ内面迄測リタルモノヲ、後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ
船舶積量測定規程第十七條ノ規定ニ依リ後端圓形ナル甲板間ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テモ亦前項ニ準シ取扱フヘシ

○船舶積量測定心得

前二項ノ方法ニ測ルヲ特ニ不適當ナリト認ムルトキハ検査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ算定スヘシ

第二十七條 船樓端ニ於テ舷側ニ外板ヲ有スル突出部アルトキハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加ヘ其ノ他ノ突出部ハ小ナルモノニ在リテハ其ノ容積ハ之ヲ船樓ノ容積ニ加ヘ大ナルモノニ在リテハ之ヲ甲板室ノ一部トシテ取扱フヘシ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具揚錨機具及副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ該室又ハ該區畫ヲ、室又ハ區畫ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二十九條 船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖装置トハ引戸及振止釘又ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ
出入口ノ兩側ニ設ケタル豎溝形材ニ挿板ヲ爲セル装置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖装置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認メ得ヘキ場合ノ取扱ニ付テハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條 船舶積量測度規程第二十一條ニ掲クル適當ノ排水口トハ高約二十吋幅約十五吋ノモノトシ甲板間ニ設クル排水孔ノ間隔ハ約三十呎ニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラル、場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ付テモ亦前項ニ準ス

第三十一條 廚室トハ「ガレー」「スカレリー」及流シ場ヲ謂フ

第三十二條 上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラル、場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス

第三十三條 船舶積量測度規程第二十三條ニ掲クル艙口ノ噸數トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅三呎以下ナルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ前項ノ艙口ノ噸數ニ算入セス

圍壁艙口ノ噸數ハ暴露甲板以上ニ在ルモノハ之ヲ艙口ノ噸數ニ算入ス

遮浪甲板下又ハ常設閉鎖装置ヲ備ヘサル船樓下ノ上甲板ハ前二項ニ掲クル暴露甲板ト看做ス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ噸數ヲ算定ス

○船舶積量測度心得

第三十四條 上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ噸數トハ天窗、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ噸數ヲ謂フ

「カウル」「マツシユルーム」「グースネツク」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ噸數ハ之ヲ該場所ノ噸數ニ算入ス

第三十五條 大型旅客船ニ在リテハ上甲板以上ニ於テ食堂上ノ「ドーム」ト食堂直上ノ甲板トノ間ニ中間ノ場所アルトキハ圍壁ナキモノト雖圍壁アルモノト看做シテ其ノ噸數ヲ算定シ之ヲ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ニ算入スヘシ

第三十六條 浴室ト便所トヲ同室内ニ設ケタルトキハ便所トシテ要スル場所ノ噸數ノミヲ便所ノ噸數トシテ算定スヘシ

第三十七條 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ噸數ノミヲ操舵室ノ噸數トシテ算定スヘシ

第五章 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

第三十八條 船員常用室ノ噸數ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條 海員ノ事務室並水先人、郵便官吏、稅關官吏、檢疫官吏、買辦、漁船ニ於テ漁獲ノミニ從事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラル、諸室ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入セス

船員及旅客ニ併用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入セス

但シ旅客船ニ非ラサル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ噸數並旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載シタル場合ニ於テ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數ニ算入ス

第四十條 船首尾水艙ハ淡水艙ノミニ用井ラル、場合ト雖之ヲ荷足水艙ト看做ス

第四十一條 船舶積量測度規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水艙ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スルニ重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面

ニ測ルヘシ

第四十二條 機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路、機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數ニ算入ス

第四十三條 船舶積量測度法第四條ニ掲クル主唧筒トハ海水排出ニ供用セラル、蒸汽唧筒ヲ謂フ

第四十四條 主機關ト連結シタル副汽罐ニ供用セラル、場所ノ噸數ハ之ヲ機關室ノ噸數トシテ取扱フヘシ

第四十五條 船舶積量測度規程第三十三條ニ掲クル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所トハ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽罐、發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、艙内送風機ニ供用セラル、場所又ハ特ニ構成シタル豫備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ該區畫ヲ、區畫ナ

○船舶積量測度心得

キトキハ其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ浚渫船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラル、機械ヲ据付ケタル場合亦同シ

第四十六條 石炭庫及燃料油庫ノ噸數ハ機關室ノ噸數ニ算入スヘカラス

第四十七條 船舶積量測定規程第三十四條ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ検査官吏ハ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第六章 積石數

第四十八條 石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ハ船首ニ在リテハ船首室ノ境界カ内軸ト船底トノ交叉部ヨリ後方ニ在ルトキハ該交叉部ヨリ、船首室ノ境界カ該交叉部ヨリ前方ニ在ルトキハ實際ノ境界ヨリ測リ船尾ニ在リテハ船尾戸建ト航ノ交叉部ヨリ測ルヘシ

第四十條 石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ハ加敷ヲ有スル船舶ニ在リテハ加敷ト外板トノ接合部ヨリ、加敷ヲ有セサル船舶ニ在リテハ航ト外板トノ接合部ヨリ測ルヘシ

第五十條 回漕船ノ船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トハ上下及三箇所ノ中間等分點ニテ測リタル幅ノ平均ヲ謂フ

回漕船以外ノ船舶ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トハ船ノ大小ニ應シ四箇所若ハ五箇所ニテ測リタル幅ノ平均ヲ謂フ

船舶検査法

明治二十九年四月公布
三十三年三月改正 (法律)

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此法律ノ規程ニ依リ検査ヲ受クヘシ

- 一 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船
- 二 端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル船
- 三 倉庫船、繫留船
- 四 平水航路ノミヲ航行スル帆船

第二條 削除

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其製造中ト雖モ一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 船舶ノ検査ハ其所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ限り前項ノ規定ニ依ラス特ニ検査官吏ヲ指定シテ船舶ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルト
キハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査
證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ
航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許
可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルト
キハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再検査ヲ申請スル
コトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セスシ
テ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、
航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命
ニ違背シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ參拾
圓以上參百圓以下ノ罰金ニ處ス
詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ船舶検査
證書又ハ假證書ニ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該證書ニ記載シタル旅客定員ヲ

超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

前條第二項ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取
締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

前條第一項及第三項ノ罰則ハ船長ニ代リテ其職務ヲ行フモノニモ之ヲ適用ス

第十二條 船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ
法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附 則

第十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止
ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證
書ハ其ノ有効期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數二百石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順
序ニ依リ漸次検査ヲ受クルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコト
ヲ得

第十七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ノ定ムル所ニヨリ検査ヲ執行ス

○船舶検査法

- 一 日本臣民ニ於テ借入日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用スル外國船舶
 - 二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミテ航行スル船舶
 - 三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外國船舶
- 第十八條 地方長官ハ第一條ニ掲ケタル船舶ノ検査ニ關シ逋信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規程ヲ設クルコトヲ得

◆船舶検査法施行細則

明治卅三年十二月公布
大正十年十一月迄數度改正 (省令)

第一章 總 則

- 第一條 本則ノ規定ハ特ニ明文アル場合ヲ除ク外外國船舶検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ外國船舶ニモ亦之ヲ適用ス
- 第二條 本則ニ於テ船舶ト稱スルハ前條ニ掲ケタル外國船舶ヲモ包含ス
- 本則ニ於テ旅客船舶ト稱スルハ十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶ヲ謂フ
- 本則ニ於テ漁船舶ト稱スルハ漁獵ニノミ從事スル船舶及ヒ専ラ漁獵場ヨリ漁獵物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶ヲ謂フ
- 本則ニ於テ移民船舶ト稱スルハ日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又移住民及ヒ三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海航路外ノ港又ハ別ニ定ムル地方ニ運送セントスル船舶ヲ謂フ
- 外國船舶検査規則第一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二條ノ二 關東州船舶特種検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル船舶ハ船舶検査法ニ定ムル検査ヲ受ケタルモノト看做ス
- 關東州船舶特種検査規則ノ規定ニ依リ交付セラレタル證書ヲ有スル船舶ハ其ノ證書ノ有効期間内ニ限り船舶検査法及本則ニ定ムル證書ヲ受有セスシテ之ヲ航行ノ用ニ

○船舶検査法施行細則

供スルコトヲ得

第二章 検査ノ種類

第三條

船舶ノ検査ヲ分チテ左ノ四種トス

一 特別検査

二 定期検査

三 臨時検査

四 移民船検査

總噸數三十噸未満又ハ積石數三百石未満ノ帆船及ヒ浚渫船ニ對シテハ前項第一號ノ検査ヲ行ハス

第四條

初メテ特別検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

一 日本船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セントスルトキ

二 船舶検査法第十七條第一號若ハ第二號ニ掲ケタル外國船舶ヲ同號ノ航路ニ使用セントスルトキ

三 船舶検査法第一條各號ノ船舶カ同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ

四 前條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ

船舶検査法第三條第二項ノ申請アリタルトキハ前項第一號ノ場合ニ於ケル特別検査

ノ一部ヲ行フ

第四條ノ二 特別検査ノ有効期間ハ其ノ検査ヲ受ケタル時ヨリ起算シ三年乃至六年トス

第五條 管海官廳ハ進水後二年ヲ經過セサル船舶ノ特別検査ヲ第一回定期検査ニ定メラレタル航行期間滿了マテ猶豫スルコトヲ得

第三條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り該船舶ノ現ニ有スル航行期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條ノ二 船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケタル船舶カ検査ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタル後再ヒ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り前ニ受ケタル特別検査ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

特別検査ヲ受ケタル船舶カ第三條第二項ニ掲ケタル船舶ト爲リタル後再ヒ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ又ハ特別検査ヲ受ケタル船舶カ國籍ヲ變更シタルモ引續キ船舶検査法ノ適用ヲ受クヘキトキハ亦前項ニ同シ

第五條ノ三 旅客船ニ非サル船舶ニシテ遞信大臣ノ認可シタル船級協會ニ於テ船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ト同一程度ノ検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ヘナシト認ムル場合ニ限り其有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

○船舶検査法施行細則

船舶検査法第十七條第一號ニ掲ケタル外國船舶ニシテ其所屬國政府ノ特別検査又ハ
逕信大臣ニ於テ相當ト認ムル船級協會ノ特別検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ
差支ナシト認ムル場合ニ限り其有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第六條 削除

第七條 特別検査ハ其ノ有効期間内ト雖モ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ
申請アルトキハ其ノ期間ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得

第八條 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メントスルトキ之ヲ行フ
前條ノ規定ハ船舶カ其ノ航行期間内ニ定期検査ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ定期検査ノ繰上ケヲ認許シタルトキハ船舶ノ航行期間ハ其滿了前
ト雖モ滿了シタルモノト看做ス

第九條 臨時検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

一 船舶検査法第三條第一項ノ規定ニ依リ検査官吏ニ於テ検査ヲ爲スノ必要アリ
ト認メタルトキ

二 第三十四條、第五十六條、第六十三條、第六十四條若ハ第七十一條第三項ノ
規定ニ依ル申請第六十六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ第七十五條ノ規
定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ管海官廳カ検査ヲ爲スノ必要アリト認メタ
ルトキ

第十條 削除

第十一條 移民船検査ハ移民船カ日本ノ最後ノ港ヲ發航セントスルトキ之ヲ行フ
第十二條 各種検査ノ方法及ヒ標準ハ船舶検査規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 検査申請ノ手續

第十三條 船舶ノ検査ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ之ヲ申請スヘシ
但シ正當ノ理由在ルトキハ船長ニ於テ之ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 船舶検査申請書ニハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ニ掲ケル事項ヲ
記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸數若ハ積石數
 - 二 所有者ノ住所及ヒ氏名若ハ名稱
 - 三 船籍港
 - 四 船長ノ氏名及ヒ其ノ海技免狀ノ種類
 - 五 航行セントスル航路
 - 六 業務種類(漁船ニ在リテハ)
 - 七 検査ヲ受ケントスル期日及ヒ場所
 - 八 検査ノ種類及ヒ其ノ申請ノ事由
- 第五條乃至第五條ノ三ノ規定ニ依リ特別検査ノ猶豫ヲ申請セントスルトキハ左ニ掲
ケル書類ヲ申請書ニ添付スヘシ

○船舶検査法施行細則

- 一 第五條第一項ノ場合進水ノ年月ヲ證スル書面
 - 二 同條第二項ノ場合 船舶検査手帳
 - 三 第五條ノ二ノ場合 船舶検査手帳 若シ之ヲ添附スルコト能ハサルトキハ前ニ特別検査ヲ受ケタル年月、場所、當時ノ船名及ヒ番號ヲ記載シタル書面
 - 四 第五條ノ三第一項ノ場合 船級協會ノ特別検査證明書
 - 五 同條第二項ノ場合當該政府又ハ船級協會ノ特別検査證明書
- 検査申請人ハ船舶カ始メテ検査ヲ受クル場合ヲ除ク外申請書ニ船舶検査手帳ヲ添付スヘシ
- 第十四條ノ二 第十八條ノ二ノ規定ニ依リ休暇日ニ船舶ノ検査ヲ受ケントスル者ハ成ルベク二日前迄ニ休暇日検査申請書ヲ差出スヘシ
- 第十五條 船舶検査法第三條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者ハ申請書、製造仕様書及ヒ圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ圖面ヲ差出スヲ要セス
- 前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者ト異ナル場合ニ於テハ之ニ連署スヘシ
- 一 船舶ノ種類及豫定ノ資格
 - 二 外板及ヒ船骨ノ材料
 - 三 計畫積量

- 四 計畫汽機
 - 五 計畫實馬力
 - 六 汽機ノ種類及ヒ數
 - 七 汽罐ノ種類及ヒ數
 - 八 推進器ノ種類及ヒ數
 - 九 使用ノ目的
 - 十 使用ノ航路
 - 十一 製造所ノ名稱及ヒ其ノ所在地
 - 十二 擔任技師ノ氏名
 - 十三 起工ノ年月
- 圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ
- 一 船體中央橫截面圖
 - 二 船體中心線縱截面圖
 - 三 甲板平面圖
 - 四 汽機橫截面圖
 - 五 汽機縱截面圖
 - 六 汽罐橫截面圖
 - 七 汽罐縱截面圖

○船舶検査法施行細則

第十六條 移民船検査ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ第十四條第一項ノ規定ニ依リテ記載スヘキ事項ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載シ船舶検査證書ノ寫及ヒ日本船舶ニ在リテハ船舶検査手帳ヲ添ヘテ管海官廳ニ差出シ之ヲ申請スヘシ

- 一 搭載スル移住民若ハ三等旅客ノ員數
- 二 移住民若ハ三等旅客ヲ搭載スル港、發航港、寄航港、到達港竝移住民若ハ三等旅客ヲ陸揚スル港
- 三 發航ノ日時及ヒ豫定航海期間
- 四 航行里程
- 五 平均速力
- 六 移住民若ハ三等旅客ニ充ツヘキ場所

第四章 検査

第十七條 船舶ノ検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ申請人検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疎明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ検査申請人ハ船舶検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ申請書ニ附記スヘシ

第十八條 船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條ノ二 逓信大臣ノ特ニ指定シタル船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル事由アル場合ニ限リ休暇日ト雖モ汽船ノ検査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査執行地以外ニ於テモ臨時ニ船舶ノ休暇日検査ヲ行フコトヲ得

第十九條 船舶カ検査ヲ受クルトキハ汽船ニ在リテハ船長及ヒ機關長、帆船ニ在リテハ船長之ニ立會フヘシ

第二十條 検査ヲ受ケントスル船舶ノ船長ハ船舶検査規程ノ定ムル所ニ依リ相當ノ準備ヲ爲スヘシ

第二十一條 検査官吏検査ノ爲メ船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書、登簿船免狀、船鑑札又ハ船舶検査證書、假證書、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十二條 検査ヲ受クル船舶ノ船長及ヒ機關長ハ検査官吏ノ要求ニ應シ必要ナル幫助ヲ爲シ又ハ其ノ訊問ニ對シ陳述ヲ爲スヘシ

第二十三條 船長又ハ機關長差支アリテ検査ニ立會フコト能ハサルトキハ運轉士又ハ機關士之ニ代リテ立會フヘシ

船長、運轉士、機關長又ハ機關士ノ乗組マサル船舶ノ検査ヲ受クルトキハ船舶所有者ハ相當ノ者ヲ指定シテ検査ニ立會ハシムヘシ

○船舶検査法施行細則

前三條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リテ立會ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタルモノ前三條ノ規定ニ違反シタルトキ
ハ検査官吏ハ其検査ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 検査官吏検査ヲ行フニ當リ必要ナリト認ムルトキハ検査ヲ結了スルマテ
船舶検査證書、假證書、通航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ヲ領置スル
コトヲ得

第二十五條 特別検査、定期検査又ハ臨時検査ノ執行中検査官吏ニ於テ其ノ船舶ノ入
渠、上架、修繕又ハ屬具ノ整備ヲ必要ナリト認メタルモ當該管海官廳ノ管轄区域内
ニ於テ直ニ之ヲ爲スコト能ハサルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ該管海
官廳ニ差出シ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ
得

管海官廳ニ於テ前項ノ事由ハ正當ニシテ且船舶ハ其ノ航海ニ適スルモノト認メタル
トキハ検査ヲ中止シ之ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル管海官廳ハ前管海官廳ニ於テ検査シタル部分ノ檢
査ヲ省略スルコトヲ得

第五章 検査ニ關スル書類
第二十六條 船舶検査證書ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種船舶検査證書ハ第一號書式ニ依リ乙種船舶検査證書ハ第二號書式ニ依ル
甲種船舶検査證書ハ定期検査ヲ行ヒタルトキ又ハ該證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ
生シタルトキ之ヲ交付シ乙種船舶検査證書ハ移民船検査ヲ行ヒタルトキ之ヲ交付ス
漁船ニハ甲種船舶検査證書ニ代ヘテ漁船検査證書ヲ交付ス
漁船検査證書ハ第一號ノ二書式ニ依ル

第二十七條 假證書ハ第三號書式又ハ第三號ノ二書式ニ依ル
假證書ハ甲種船舶検査證書又ハ漁船検査證書ヲ交付スヘキ場合ニ限り之ヲ交付ス
假證書ノ有効期間ハ船舶検査證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ標準トシ検査官吏之ヲ定ム
假證書ハ二回以上之ヲ交付スルコトヲ得但シ第二十八條及ヒ第三十一條ノ場合ハ
此ノ限ニ在ラス

第二十八條 船舶検査證書又ハ假證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其
ノ事由ヲ具シ船舶検査證書又ハ假證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申
請スヘシ

第二十九條 前條ノ規定ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ノ再交付ヲ申請スルモ其ノ交
付ヲ受クルニ至ルマテ時日ヲ要シ航海ニ差支ヲ生スルトキハ船長ハ前條ノ申請ヲ爲
スト同時ニ最寄管海官廳ニ通航證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ其ノ事由ヲ具シ且滅失又ハ毀損ニ係ル船舶検査證書
若ハ假證書ニ記載アリタル事項ヲ附記シ船舶検査手帳ノ存在スル場合ニ於テハ之ヲ

○船舶検査法施行細則

添附スヘシ

第三十條 適航證書ハ第四號書式ニ依ル

適航證書ノ有効期間ハ船舶検査證書又ハ假證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ標準トシ一箇月以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第三十一條 船舶検査證書又ハ假證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長

ハ遲滞ナク最寄管海官廳ニ船舶検査證書又ハ假證書ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生シタル事項カ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載ス

ヘキモノナルトキハ船長ハ船舶法施行細則第三十四條又ハ同則第三十九條ノ規定ニ依リテ交付アリタル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閱ニ供ス

ヘシ但シ同一管海官廳ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ書換ヲ申請スヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 船舶カ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ適航證書ヲ受有スルトキ

二 船舶検査執行地外ニ於テ製造セラレ若ハ國籍ヲ取得シ其ノ他検査ヲ受クヘキモノト爲リタル船舶ヲ船籍港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ該船舶ヲ最寄管海官廳所在地若ハ検査執行地マテ回航セシムルトキ

三 船舶法施行細則第四條各號ニ該當スルトキ

内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書有効期間内ニ於テ内地ノ目的港マテ之ヲ回航スルトキ

五 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ内地各港ノ間、内地ト臺灣トノ間又ハ内地ト外國トノ間ヲ航行セントスルト

六 臺灣ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニヨリ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其検査證書有効期間内ニ於テ船舶検査法第十七條ノ場合ニ該當スルトキ

七 管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲メ之ヲ回航セシムルトキ

八 管海官廳ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ノ沿岸又ハ其ノ湖川港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ

前項第二號第三號第七號又ハ第八號ノ場合ニ於テハ船舶ニ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得

第一項第五號又ハ第六號ノ船舶カ旅客船ナル場合ニ於テ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ旅客及ヒ旅客室ニ關スル設備ヲ検査シ本則及ヒ船舶検査規程ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

○船舶検査法施行細則

第三十三條 外國ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シタル日本船舶ヲ内地ノ目的港マテ回航セシムルニ當リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ船長ハ該船舶者其ノ他相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附シ帝國領事ノ認可ヲ申請スヘシ

帝國領事ニ於テ前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ回航認可證書ヲ交付ス

第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路定限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

- 一 日本船舶ヲ所有スコルトヲ得サル者ニ船舶ヲ讓渡ス目的ヲ以テ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國マテ回航セシムルトキ
- 二 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ノ沿岸又ハ其ノ湖川港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ
- 三 臺灣ニ船籍港ヲ變更スル爲メ船舶ヲ該島マテ回航セシムルトキ
- 四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ且工場所在地ヨリ検査執行地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ
- 四ノ二 管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ検査ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ検査ヲ受クル爲メ管海官廳所在地マテ回航セシムルトキ
- 五 第二十五條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ他ノ管

海官廳ノ管轄區域内マテ船舶ヲ回航セシメ且ツ囑託ノ場合ニ於テハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域内マテ更ニ回航セシムルトキ

六 航路定限内ノ地ニ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ

七 航行期間滿了シタル場合又ハ航海途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受ケタル爲メ船舶ヲ航路定限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ

八 航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限内マテ回航セシムルトキ

九 航路定限變更ノ爲メ船舶ヲ航路定限外ニ回航セシムルトキ

十 海難救助其地管海官廳ニ於テ已ヲ得サル事由アルモノト認ムル場合ニ限り一時船舶ヲ航路定限外ニ回航シ再ヒ航路定限内ニ回航セシムルトキ

第三十五條 第三十二條第一項第七號第八號及前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ検査申請人ヨリ事由ヲ具シタル申請書ヲ差出スヘシ

前條各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ其ノ旨ヲ前項ノ申請書ニ附記スヘシ

管海官廳ハ前二項ノ申請書ニ記載シタル事由ハ正當ニシテ且其ノ船舶ハ回航ニ適スルモノト認メタルトキハ旅客又ハ貨物ヲ搭載シ得ルヤ否ヤヲ決シ回航認可證書ヲ交付ス

第三十六條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ内地以外ノ地ニ

於テ航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スベキ場合ニ於テ之レテ内地ノ到達港マテ回航セシメントスルトキハ船長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事ニ其ノ他ノ地方ニ在リテハ當該管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條ノ二 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス船舶カ航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル目的港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル陸揚港ヲ經テ内地ノ目的港マテ回航セシメントスルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ差出シ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第三十五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 回航認可證書ハ第五號書式ニ依ル
回航認可證書ノ有効期間ハ回航ニ要スル期間ヲ標準トシテ當該管海官廳又ハ帝國領事之ヲ定ム但前條ノ場合ニ於テハ二箇月ヲ超過スルコトヲ得ス
船舶カ目的地ニ到着シタルトキハ回航認可證書ハ有効期間滿了前ト雖モ其ノ效力ヲ失フ

第三十八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

- 一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
- 二 船舶カ船舶検査法ノ規定ニ依リテ検査ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ
- 三 船舶ノ航行期間又ハ假證書ノ有効期間滿了ノトキ
- 四 漁船検査證書ヲ受有スル船舶カ漁船ニアラサルモノトナリタルトキ

第十一條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル船舶カ到達港ニ到着シタルトキハ其ノ港ニ於ケル帝國領事若シ其ノ港ニ帝國領事館ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル港ニ於ケル帝國領事ニ乙種船舶検査證書ヲ返還スヘシ

第三十九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ舊船舶検査證書又ハ舊假證書ヲ其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ返還スヘシ

- 一 假證書ヲ受ケタル船舶ニ對シ船舶検査證書ノ交付ヲ受ケタルトキ
- 二 船舶検査證書又ハ假證書ノ書換ヲ受ケタルトキ
- 三 船舶検査證書又ハ假證書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第四十條 船舶検査證書又ハ假證書ノ返還ハ第三十八條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事實アリタル日若ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ十日以内ニ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人之ヲ爲シ同項第三號ノ場合ニ於テハ遲滞ナク第三十九

○船舶検査法施行細則

條各號ノ場合ニ於テハ新船舶検査證書又ハ新假證書ト引換ニ船長之ヲ爲スヘシ但シ船長ノ在ラサル場合ニ於テハ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人之ヲ爲スヘシ船舶検査證書又ハ假證書ヲ返還スル義務アル者ノ所在分明ナラサルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ船舶検査證書又ハ假證書ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシトキハ船長ハ之ト引換ニ適航證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第四十一條 適航證書ヲ受有スル船舶ニ對シ船舶検査證書又ハ假證書ノ交付アリタル適航證書ノ有効期間滿了ノトキ又ハ効力ヲ失ヒタルトキハ船長ヨリ五日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 船舶検査證書、假證書又ハ適航證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキ返還ノ義務アル者ハ當該管海官廳ニ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

前項ニ掲ケタル書類ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ管海官廳ハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ該書類ニ記載シタル有効期間滿了ノ後ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 回航認可證書ノ有効期間滿了ノトキ又ハ効力ヲ失ヒタルトキハ船長ヨリ五日以内ニ管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第四十二條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 船長ハ船舶検査證書、假證書、適航證書又ハ回航認可證書ヲ船内最モ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

沿海航路以下ノ汽船ニシテ其ノ受有スル船舶検査證書又ハ假證書ノ船長欄ニ記載ヲ爲サ、ルモノニ在リテハ船長ハ其ノ氏名ヲ記載シタル標札ヲ前項ニ掲クル證書ニ併セテ掲ケ置クヘシ

第四十五條 検査官吏検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船舶検査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ

船舶検査手帖ハ検査官吏ニ於テ檢閲スル場合ヲ除ク外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第四十六條 船舶検査手帖ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ依リ其再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊船舶検査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶検査手帖ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ更ニ封緘ヲ申請スヘシ

第四十七條 適航證書、又ハ回航認可證書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

適航證書若ハ回航認可證書ノ毀損ニ因リ其再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ヘニ舊適航證書若ハ舊回航認可證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第四十七條ノ二 船舶検査證書ノ英譯書ヲ受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ其ノ交付ヲ申請スヘシ
 英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム
 第四十七條ノ三 船舶検査證書ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但シ毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 第四十七條ノ四 船舶検査證書、其ノ英譯書、假船舶検査證書、滴航書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ハ當事者ノ申請アリタルトキハ急速ヲ必要トスル事由アル場合ニ限り休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトヲ得

第六章 航路定限

第四十八條 航路ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 遠洋航路
 - 二 近海航路
 - 三 沿海航路
 - 四 平水航路
- 第四十九條 遠洋航路トハ内外國ノ各地ニ通スル航路ヲ謂フ
 第五十條 近海航路トハ左ニ掲クル各區内及ヒ各區ヲ併セタル區域内ノ航路ヲ謂フ
 第一區 東經百十三度ヨリ同百七十度及ヒ北緯二十一度ヨリ同六十三度ニ至ル線内

第二區 東經九十五度ヨリ同百七十五度及ヒ南緯十一度ヨリ北緯二十七度ニ至ル線内

第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ

- 第一區 上總國大東埼ヨリ安房國野島埼、伊豆國新島及ヒ神津島ヲ經テ遠江國御前埼ニ至ル線内
- 第二區 三河國伊良湖埼ヨリ志摩國大王埼紀伊國大島及ヒ潮岬ヲ經テ土佐國中ノ浦ニ至ル線内紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内及ヒ淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線内
- 第三區 削除
- 第四區 紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内、淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ至ル線内、伊豫國佐田岬ヨリ豊後國大島ヲ經テ鶴見埼ニ至ル線内及ヒ長門國觀音埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ至ル線内
- 第五區 削除
- 第六區 伊豫國佐田岬ヨリ豊後國美濃埼ニ至ル線内及ヒ土佐國足摺埼ヨリ日向國內海ニ至ル線内
- 第七區 土佐國室戸埼ヨリ足摺埼ニ至ル線内
- 第八區 日向國內海ヨリ大隅國種子島、屋久島、口永良部島及ヒ黑島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内

○船舶検査法施行細則

- 第九區 薩摩國野間岬ヨリ嶺列島及肥前國野母崎ヲ經テ三重崎ニ至ル線内
- 第十區 肥前國野母崎ヨリ五島列島及的山大島ヲ經テ平戸海峽ニ至ル線内
- 第十一區 肥前國野母崎ヨリ平戸島、生月島、豊岐島及ヒ對馬島ヲ經テ長門國觀音崎ニ至ル線内及豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内
- 第十二區 群馬島沿岸、對馬島北端ヨリ朝鮮蔚崎ニ至ル線内及ヒ對馬島南端ヨリ朝鮮鴻島ヲ經テ巨濟島コルベツト岬ニ至ル線内
- 第十三區 筑前國岩屋崎ヨリ長門國角島及ヒ見島ヲ經テ石見國溫泉津ニ至ル線内及ヒ豊前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内
- 第十四區 石見國溫泉津ヨリ隱岐列島ヲ經テ因幡國賀露ニ至ル線内
- 第十五區 因幡國賀露ヨリ越前國三國ニ至ル線内
- 第十六區 越前國三國ヨリ能登國輪島崎ニ至ル線内
- 第十七區 能登國輪島崎ヨリ舩倉島及ヒ佐渡島ヲ經テ越後國新潟ニ至ル線内
- 第十八區 越後國新潟ヨリ佐渡島及ヒ羽後國飛鳥ヲ經テ酒田ニ至ル線内
- 第十九區 羽後國酒田ヨリ飛鳥及ヒ陸奥國久六島ヲ經テ深浦ニ至ル線内
- 陸奥國深浦ヨリ渡島國小島ヲ經テ江良町ニ至ル線内及ヒ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十區 渡島國江良町ヨリ後志國奥尻島ヲ經テ茂津多岬ニ至ル線内
- 第二十一區 後志國茂津多岬ヨリ神威岬ヲ經テ積丹岬ニ至ル線内

- 第二十二區 後志國神威岬ヨリ積丹岬ヲ經テ天鹽國留萌ニ至ル線内
- 第二十三區 天鹽國留萌ヨリ天賣島ヲ經テ天鹽ニ至ル線内
- 第二十四區 天鹽國天鹽ヨリ北見國利尻島及ヒ禮文島ヲ經テ宗谷岬ニ至ル線内
- 第二十五區 北見國知床岬ヨリ千島國國後島、色丹島、アキユリ島ヲ經テ根室國納沙布崎ニ至ル線内
- 第二十五區ノ二 根室國納沙布崎ヨリ落石崎及ヒ釧路國尻羽崎ヲ經テ十勝國大津ニ至ル線内
- 第二十六區 膽振國苦小牧ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十七區 陸奥國八戸馬淵川口ヨリ陸前國金華山ヲ經テ花淵崎ニ至ル線内
- 第二十八區 大隅國奄美大島沿岸及ヒ奄美群島間
- 第二十九區 沖繩島沿岸及ヒ沖繩群島間
- 第五十二條 平水航路トハ湖川港内及ヒ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ
- 第一區 相模國千駄崎ヨリ笠島ヲ經テ上總國富津ニ至ル線内
- 第二區 駿河國三保崎ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内
- 第三區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内
- 第三區ノ二 紀伊國駒崎ヨリ木地崎ニ至ル線内
- 第四區 紀伊國宮崎ヨリ加太浦ニ至ル線内
- 第五區 紀伊國友ヶ島水道及ヒ播磨國明石瀬戸以内

○船舶検査法施行細則

- 第六區 播磨國室津ヨリ小豆島大角鼻ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及ヒ讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内
- 第七區 讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内及ヒ伊豫國梶取埼ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内
- 第八區 伊豫國梶取埼ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内及ヒ伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島平郡島ヲ經テ上ノ關ニ至ル線内
- 第八區ノ二 周防國島田川東岸ヨリ笠戸島火振埼ヲ經テ向島翁埼ニ至ル線内及ヒ向島元ヶ鼻ヨリ周防國西泊埼ニ至ル線内
- 第九區 豐後國地藏埼ヨリ美濃埼ニ至ル線内
- 第九區ノ二 豐後國地藏埼ヨリ沖無垢島ヲ經テ保戸島ニ至ル線内
- 第九區ノ三 豐後國保戸島ヨリ大島ヲ經テ鶴見埼ニ至ル線内
- 第十區 豐後國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及ヒ筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内
- 第十區ノ二 長門國青海島ノ東端ヨリ虎ヶ崎ニ至ル線内及ヒ青海島ノ西端ヨリ今岬ニ至ル線内
- 第十一區 筑前國西浦三埼ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内
- 第十二區 筑前國鹿家埼ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内
- 第十三區 對馬國唐洲埼ヨリ郷埼ニ至ル線内

- 第十四區 肥前國津埼ヨリ鷹島ヲ經テ值賀埼ニ至ル線内
- 第十五區 肥前國向後埼ヨリ番所埼ニ至ル線内
- 第十六區 肥前國七郎埼ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ埼ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬埼ヨリ平戸島魚見埼ニ至ル線内
- 第十七區 肥前國野母埼ヨリ三重埼ニ至ル線内
- 第十八區 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島埼ニ至ル線内
- 第十九區 肥後國天草島牛深港及ヒ黒瀬戸以内
- 第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内
- 第二十區ノ二 隱岐國島前、中井口、木路口及ヒ赤灘口以内
- 第二十一區 出雲國地藏埼ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内
- 第二十二區 丹後國鷲埼ヨリ博奕埼ニ至ル線内
- 第二十三區 越前國立石埼ヨリヲカ埼ニ至ル線内
- 第二十四區 能登國觀音埼ヨリ沖波鼻ニ至ル線内
- 第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内
- 第二十六區 陸前國花淵埼ヨリ宮戸島萱ノ埼ニ至ル線内
- 第二十七區 渡島國函館山尾花埼ヨリ葛登支岬ニ至ル線内
- 第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内
- 第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内

第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内

第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル船舶ハ第五十一條又ハ客船ニ非ラサルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得

第五十四條 旅客船ニ非ラサル沿海航路ヲ航路定限ト爲ス船舶ニシテ第五十一條ニ掲ケタル區域中第二區ヲ土佐國室戸崎マテ第二十五區ヲ擇捉島沿岸マテ延長セントスルトキ又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス船舶ニシテ第五十二條ニ掲ケタル湖川港ヨリ其ノ船舶ノ最強速力ヲ以テ二時間以内ニ往復シ得ヘキ平水航路外ノ場所ヘ航行セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ管海官廳ヘ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第五十五條 各船舶ノ航路定限ハ検査官吏ニ於テ當該船舶カ申請ノ航路ニ堪フルヤ否ヤヲ査覈シ前六條ニ掲ケタル區域以内ニ於テ之ヲ定ム
検査官吏ニ於テ申請ノ航路カ季節ニ依リテ危険アリト認ムルトキハ期間ヲ附シテ航路定限ヲ定ムヘキモノトス

第五十六條 船舶ノ航行期間内ニ於テ航路ヲ變更セントスル者ハ申請書ニ新舊航路定限ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出シ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第五十五條ノ二 朝鮮、臺灣、樺太、又ハ外國ノ各港間又ハ湖川港内ヲ航行セントスル日本船舶ノ航路定限ハ検査申請人ヨリ申請アリタルトキハ前六條ノ規定ニ準シ之ヲ定ムルコトヲ得

第七章 旅客定員

第五十七條 旅客定員ハ船舶ノ航路ニ依リ附録旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ從ヒ各室毎ニ之ヲ算定ス

第五十八條 船舶ニ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ積算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セス

第五十九條 左ニ掲クル者ハ旅客ト看做サス但シ第一號及ヒ第二號ニ掲クル者カ旅客室内ニ在ルトキハ旅客定員ニ算入ス
一 船舶所有者、船舶管理人及ヒ船舶借入人
二 船員ニ在ラスシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者
三 航行中ニ救助セラレタル者

第六十條 船長ハ各旅客室毎ニ見易キ場所ヲ選ヒ該室ノ等級及ヒ旅客定員ヲ表示スヘシ
三等旅客室ニ客棚ヲ設クルモノニ在リテハ船長ハ各室ニ見易キ場所ヲ選ヒ客棚毎ニ其ノ旅客定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ掲クヘシ

第六十一條 船長ハ旅客室ト船員常用室トヲ常ニ區別シ置クヘシ

第六十二條 旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ船長ハ該室ノ旅客定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ超エテ旅客ヲ搭載スルコトヲ得ス

○船舶検査法施行細則

第六十三條 船舶ノ航行期間内ニ於テ旅客定員ヲ變更セントスル者ハ申請書ニ事由ヲ具シ船舶検査手帖ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第六十四條 近海航路以下ノ航路ニ於テ臨時ニ多數ノ漁失、移住民若ハ出稼人ヲ運送セントスルトキハ検査申請人ハ最寄管海官廳ニ申請シ其認可ヲ受ケ第三十一條ノ手續ニ依ラスシテ附録臨時旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ依リ旅客ニ搭載スルコトヲ得

第六十五條

前條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

- 一 旅客ノ種類及ヒ員數
 - 二 航行里程
 - 三 平均速力
 - 四 發航港、寄航港、到達港
 - 五 豫定航海期間
 - 六 旅客室ニ充ツヘキ場所
 - 七 船舶検査證書ニ記載セル航行期間
 - 八 船舶検査證書ニ記載セル航路制限
- 第六十六條 管海官廳ハ前條ノ申請ヲ認可シタルトキハ旅客定員ヲ定メ第六號書式ノ臨時旅客定員證書ヲ申請人ニ交付ス

臨時旅客定員證書ハ第四十四條ノ規定ニ依リ船内ニ掲ケ置クヘキ證書ト竝ヘ掲クヘシ

第六十六條ノ二 軍隊ヲ運送セントスルトキハ輸送擔任部隊ヨリ最寄管海官廳ニ請求シ第三十一條ノ手續ニ依ラスシテ附録臨時旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ依リ之ヲ搭載スルコトヲ得

前項ノ場合ニ依リ第六十五條ノ規定ニ依リ船舶検査手帖ヲ管海官廳ニ差出スコト能ハサルトキハ軍隊ヲ搭載スル場所ノ略圖ヲ以テ之ヲ代用スルコトヲ得

前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ準用ス

第六十六條ノ三 船長ハ第六十四條又ハ前條ノ旅客ト其他ノ旅客トヲ同一室内ニ搭載スルコトヲ得ス

第八章 汽壓制限

第六十七條 第四十七條ノ規定ハ臨時旅客定員證書カ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 臨時旅客定員證書ハ船長ニ於テ常該航海ヲ終リタルトキハ遲滞ナク其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第六十九條 船舶ノ汽壓制限ハ検査官吏ニ於テ機關ノ現状ニ應シ船舶検査規程ニ依リ之ヲ定ム

第七十條 検査官吏ニ於テ安全瓣ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

第七十一條 船長ハ安全瓣ノ鍵ヲ封緘ノ儘船内ニ保管スヘシ
船長ハ己ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封スルコトヲ得ス

安全瓣ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全瓣ノ鍵ヲ開封シタルトキハ最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全瓣ノ封鎖ヲ申請スヘシ
前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九章 航行期間

第七十二條 船舶ノ航行期間ハ船舶ノ現状ニ應シ船舶検査法第四條ノ規定ニ依リ検査官吏之ヲ定ム

第十章 再検査

第七十三條 船舶検査法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ再検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及ヒ其ノ理由ヲ列記シタル事由書ヲ添附シ検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ逕信大臣ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ再検査ノ申請書ノ受理シタルトキハ前検査ヲ行ヒタル検査官吏ヲシテ再検査申請ノ理由ニ對スル意見書ヲ調製セシメ申請書ト共ニ逕信大臣ニ進達スヘシ

第七十四條 逕信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト決定シタルトキ又ハ再検査ノ申請人若ハ其ノ被雇者カ再検査ノ決定前ニ船舶ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

逕信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト決定シタルトキハ特ニ検査官吏ヲ命シテ再検査ヲ行ハシメ前検査ヲ失當ナリト認めタルトキハ之ヲ取消シ該検査官吏ノ報告ニ原キ更ニ當該管海官廳ヲシテ船舶検査證書、假證書其ノ他検査ニ必要ナル證書ヲ申請人ニ交付セシム

第十一章 雜則

第七十五條 船舶ノ航行期間内ニ於テ左ニ掲クル場合ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ其旨管海官廳ニ届出ツヘシ

- 一 船舶ヲ入渠若ハ上架セントスルトキ
- 二 船體又ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セントスルトキ
- 三 汽機、發動機若ハ汽罐ヲ取放シタルトキ又ハ螺旋軸ヲ拔出シタルトキ

○船舶検査法施行細則

第七十五條ノ二 船舶ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請人ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附録汽船検査手数料表ニ定ムル検査手数料ヲ納付スヘシ
 検査申請人ノ都合ニ依リ検査申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ検査ヲ要セサルモノトナリタル場合、雖モ検査著手後ナルトキハ検査手数料ヲ徴收ス

第七十六條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手数料ヲ納付スヘシ
 一 船舶検査證書又ハ假證書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケントスルトキ並適航證書回航認可證書、又ハ臨時旅客定員證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ

汽船	帆船	汽船	帆船
二圓	一圓	二圓	一圓

二 船舶検査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ
 汽船 四圓
 帆船 二圓

三 船舶検査手帖ノ再交付ヲ受ケントスルトキ
 總噸數百噸以上ノ汽船及ヒ機關ヲ有スル帆船 十圓
 總噸數百噸未満ノ汽船及ヒ機關ヲ有スル帆船 七圓
 機關ヲ有セサル帆船 五圓

前項第一號及ヒ第二號ノ手数料ハ第四十七條ノ四ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ

交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第七十七條 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

手数料納付書ニ貼付シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

検査手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、検査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非サルモノトノ區別臨時検査ニ於ケル臨檢回数、休暇日ニ於ケル臨檢回数及手数料額ヲ記載スヘシ

第七十八條 船舶検査執行地以外ニ於テ船舶ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請人ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ検査ヲ受クルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス

第七十九條 本章ノ規定ニ依ル手数料及ヒ旅費ハ官廳ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徴收セス

第十二章 罰 則

第八十條 左ノ場合ニ該當スル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第五章ノ規定ニ依リ船舶検査證書假證書ノ書換ヲ申請セサルトキ又船舶検査

- 證書、假證書、通航證書、回航認可證書若ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ申請セ
ス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ
- 二 第三十二條第二項ノ規定ニ反シ旅客若ハ貨物ヲ搭載シ又ハ三十三條ノ規定ニ
反シ回航認可證書ヲ受ケスシテ旅客若ハ貨物ヲ搭載シ又ハ第三十五條、第三
十六條若ハ第三十六條ノ二ノ規定ニ反シ回航認可證書ニ明許ヲ受ケスシテ旅
客若ハ貨物ヲ搭載シ又ハ第六十二條若ハ第六十六條ノ三ノ規定ニ反シ旅客ヲ
搭載シタルトキ
- 三 第四十四條、第六十條又ハ第六十六條第二項ノ規定ニ反シ船舶検査證書、假
證書、通航證書、回航認可證書、船長ノ氏名、旅客室ノ等級、旅客定員三等
客棚配置圖又ハ臨時旅客定員證書ヲ表示セサルトキ
- 四 第四十五條第二項ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管セサルトキ又ハ同
條第三項ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ノ封緘ヲ開封シタルトキ
- 五 第四十六條ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ノ封筒ノ封緘ヲ申請セサルトキ
- 六 第六十一條ノ規定ニ反シ旅客室ト船員常用室トヲ區別シ於カサルトキ
- 七 第六十八條ノ規定ニ反シ臨時旅客定員證書ノ返還ヲ怠リタルトキ
- 八 第七十一條第一項ノ規定ニ反シ安全瓣ノ鍵ヲ船内ニ保管セサルトキ又ハ同條
第二項ノ規定ニ反シ安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封シタルトキ
- 九 第七十一條第三項ノ規定ニ反シ安全瓣ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタ
ルトキ又ハ安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封シタル場合ニ於テ更ニ封鎖ノ申請ヲ爲サ
ルトキ

ルトキ又ハ安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封シタル場合ニ於テ更ニ封鎖ノ申請ヲ爲サ
ルトキ

- 十 第七十五條ノ規定ニ反シ届出ヲ爲サ、ルトキ
- 第八十一條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者
ニモ亦之ヲ適用ス
- 第八十二條 本章ノ規定中船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ニ適用スヘキモノ
ハ刑法第三十九條第一項又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ其ノ者ヲ罰スヘカラサル場合
ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代
表者又ハ清算人ニ之ヲ適用ス
- 附則略ス
- 附錄 旅客定員算出表略ス
- 第一號乃至第六號 船舶検査證書等様式略ス

船舶検査手数料表

汽船及ヒ機關ヲ有スル帆船	
検査種類	總噸數
未滿	二十噸
噸以上	二十噸
未滿	百噸
噸以上	百噸
未滿	三百噸
噸以上	三百噸
未滿	五百噸
噸以上	五百噸
未滿	千噸
噸以上	千噸
未滿	三千噸
噸以上	三千噸
未滿	六千噸
噸以上	六千噸
未滿	一萬噸
噸以上	一萬噸

○船舶検査法施行細則

移民船検査	臨時検査 回ニ付	定期検査		製造中ノ 特別検査		特別検査	
		旅客船 非サルモニ	旅客船	旅客船 非サルモニ	旅客船	旅客船 非サルモニ	旅客船
三十五圓	二圓	四圓	六圓	二十八圓	四十圓	十圓	十五圓
		六圓	九圓	四十圓	六十圓	十五圓	二十圓
	三圓	十圓	十五圓	六十圓	九十圓	二十圓	三十圓
		十五圓	二十圓	九十圓	百四十圓	三十圓	五十圓
	五百圓以上 二千圓	二十圓	三十圓	百四十圓	二百圓	五十圓	七十圓
		二十五圓	四十圓	二百圓	三百圓	七十圓	百圓
	二千圓以上 七圓	三十五圓	五十圓	二百七圓	四百圓	九十圓	百三十圓
		四十五圓	六十五圓	三百三圓	五百圓	百十圓	百六十圓
		五十五圓	八十圓	四百圓	六百圓	百三十圓	三百圓

機關ヲ有セサル帆船

検査種類	特別検査	製造中ノ特別検査	定期検査	總噸數	
				五十噸以上 五十噸未満	五十噸以上 三百噸以上
特別検査	五圓	十五圓	二圓	五十噸以上	五十噸以上
	七圓	二十圓	三圓	五十噸以上	三百噸以上
	十圓	三十圓	五圓	三百噸以上	五百噸以上
	十五圓	四十五圓	七圓	五百噸以上	五百噸以上
製造中ノ特別検査	二十五圓	七十五圓	十圓		

備考

- 一 臨檢一回ト稱スルハ検査官吏一人一回ノ臨檢ヲ謂フ
 - 二 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數十石ヲ以テ一噸ノ割合ニ換算シ検査手數料ヲ算出ス
 - 三 特別検査及ヒ定期検査ヲ同時ニ受クルトキハ特別検査手數料ノミヲ納付スヘシ
- 製造中ノ特別検査及ヒ定期検査ヲ同時ニ受クルトキハ製造中ノ特別検査手數料ノミヲ納付スヘシ
- 船舶検査法施行細則

- 四 船體又ハ機關ノ特別検査及ヒ定期検査ヲ同時ニ受クルトキハ特別検査料ノ半額及ヒ定期検査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ
- 五 船體ノ製造中ノ特別検査、機關ノ特別検査及ヒ定期検査ヲ同時ニ受クルトキハ製造中ノ特別検査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ
- 六 機關ノ製造中ノ特別検査、船體ノ特別検査及ヒ定期検査ヲ同時ニ受クルトキハ亦前項ニ同シ
- 六 機關ノ製造中ノ特別検査及ヒ定期検査ヲ同時ニ受クルトキハ製造中ノ特別検査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ
- 六 二 船體若ハ機關ノ特別検査又ハ船體若ハ機關ノ製造中ノ特別検査ノミ受クルトキハ特別検査又ハ製造中ノ特別検査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ
- 六 三 製造中ノ特別検査ノ申請ヲ取下ケタル場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ検査手數料ヲ納付スヘシ
- 七 臨時検査手數料カ當該船舶ノ特別検査手數料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム
- 八 臨時検査又ハ休暇日検査カ午前及ヒ午後ニ互ルトキハ之ヲ臨檢二回ト看做ス
- 九 休暇日ニ於テ検査ヲ受クルトキハ検査音吏一人臨檢一回毎ニ本表及ヒ前各號ノ規定ニ依リ算出シタル料金ノ三割ヲ検査手數料ニ加算ス
- 十 但シ三割ノ金額カ三圓未満ナルトキハ之ヲ三圓トシテ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム
- 外國ニ於テ検査ヲ受クルトキハ其ノ手數料ハ本表及ヒ前各號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス
- 検査ニ付内地ト外國トノ間ニ第二十五條第二項ニ規定セル囑託又ハ引繼ノ關係ヲ生シ且ツ外國ニ於テ一回タリトモ臨檢ヲ受ケタルトキ亦其検査ノ手數料ハ前項ニ同シ

船舶検査規程

明治三十三年十二月公布
大正十一年一月迄數度改正 (省令)

第一編 總 則

- 第一條 此ノ規定中鋼船ニ關スル規定ハ鐵船ニモ亦之レヲ適用ス
- 第二條 削除
- 第三條 船體及ヒ機關ノ検査ハ此ノ規程ノ外鋼船ノ船體ニ於テハ造船規程、噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル木船ノ船體ニ於テハ木船検査規程、機關ニ於テハ造船規程ニ依リ之ヲ執行スヘシ
- 第四條 定期検査ニ於テハ船體、機關及ヒ屬具ノ現狀旅客室及ヒ船員常用室、旅客及ヒ船員ニ關スル設備ヲ検査スヘシ
- 第五條 特別検査ニ於テハ船體、機關及ヒ屬具ノ構造竝ニ現狀ヲ検査スヘシ
- 船舶検査法施行細則第五條ノ三第一項ノ規定ニ依リ特別検査ヲ猶豫シタル船舶ノ特別検査ノ回数ニハ船級協會ノ當該検査ヲ算入ス
- 第六條 検査官吏船舶ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ噸數、速力、構造、材料工事及ヒ現狀ニ應シ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ
 - 一 第一級船
 - 二 第二級船

三 第三級船
四 第四級船

船舶検査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ資格ハ定期検査ニ於テ之ヲ定ムヘシ

船舶検査法施行細則第五條ノ三第一項ノ規定ニ依リ特別検査ヲ猶豫スル船舶ノ資格ハ猶豫ノ申請アリタルトキ之ヲ定ムヘシ

検査官吏ニ於テ定期検査若ハ臨時検査執行ノ際船舶ノ資格ニ變更ヲ生シタリト認ムルトキハ更ニ資格ヲ定ムヘシ

第七條 船舶ノ資格ヲ定ムル噸數及ヒ速力ノ標準ハ左ニ掲クルモノニ依ル但特殊ノ船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

一 第一級船

汽船 帆船

上甲板下噸數
最速力

五百噸以上
八十節以上

二 第二級船

汽船 帆船

上甲板下噸數
最速力

百噸以上
二十節以上

三 第三級船

汽船 帆船

上甲板下噸數
最速力

二十噸以上
六節以上
無制限

四 第四級船

汽船 帆船

上甲板下噸數
最速力

同

前項ノ規定ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ノ資格ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス
甲板ヲ有セス又ハ頂部ヲ水密ニ爲シ得サル船舶ハ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ス

外板其ノ他要部ノ衰耗著シク從來ノ資格ヲ繼續シ得サル疑アル船舶ニ於テハ検査官吏ハ其衰耗ノ程度ヲ精査シタル報告書ニ意見ヲ具シ遞信大臣ノ指揮ヲ受ケ其ノ資格ヲ定ムヘシ

第八條 検査官吏船舶ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ左表ノ標準ニ依リ船體又ハ機關ノ特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ但大修繕ヲ加ヘタルモノ現狀ノ特ニ良好ナルモノ又ハ特ニ不良ナルモノ若ハ特殊ノ構造ヲ有スルモノニ於テハ検査官吏ハ其ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

鋼 船 船 體	船體進水後又ハ機關製造後年齢		特別検査期間
	二年未滿	五年	
	二十六年未滿	四年	
	二十六年以上	三年	

機	木 船 體				
	要部ニ木船検査規程ニ定ムル甲 材又ハ乙材ヲ用キタルモノ		要部ニ木船検査規程ニ定ムル丙 材又ハ丁材ヲ用キタルモノ		
關	二年未滿	五年	十年未滿	十年以上	二十六年未滿
	十八年未滿	四年	十八年以上	十年未滿	二十六年以上
	五年	三年	三年	四年	五年
	四年	三年	三年	四年	五年
	三年	三年	三年	四年	五年

進水年月又ハ製造年月ノ明ナラサルモノハ検査官吏ノ認定ニ依ル
製造中特別検査ヲ受ケタル船體又ハ機關ハ年齢十三年未滿ノモノニ限り各特別検査
ノ期間ヲ一年ツ、延長スルコトヲ得但石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ノ船體ニ於テ
ハ此ノ限ニ在ラス
木鐵交造船其ノ他特種ノ船體ニ於テハ前各項ノ規定ニ準シ検査官吏ノ相當ト認ムル
特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ
第九條 削除
第十條 船舶ノ航路定限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

但第二級船ニシテ近海航路第二區又ハ近海航路第一區及ヒ第一區ヲ併セタル區域ヲ
航路定限ト爲スモノハ總噸數千噸以上ノ汽船及ヒ總噸數五百噸以上ノ帆船ニシテ檢
査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限ル

- 第一級船 遠洋航路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路
- 第二級船 近海航路、沿海航路又ハ平水航路
- 第三級船 沿海航路又ハ平水航路
- 第四級船 平水航路

資格未定ノ船舶ニ於テハ検査官吏ニ於テ該船舶カ申請ノ航路ニ堪フルト認ムルモノ
ニ限リ其ノ航路定限ヲ定ム

第十一條 移民船検査ニ於テハ旅客室、端艇、救命具、消防具其ノ他旅客ニ關スル設
備ヲ検査スヘシ

外國船舶ハ移民船検査ニ於テハ前項ニ掲クルモノ、外船體、機關及ヒ屬具ノ現状ヲ
検査スヘシ但該船舶カ其ノ所屬國政府若ハ相當ノ技能ヲ有スル者ヨリ特別検査若ハ
定期検査ヲ行ヒタルコトヲ證スル書類ヲ受有スルトキハ検査官吏ニ於テ特ニ必要ナ
シト認ムル場合ニ限リ第一項ニ掲クルモノ、外検査ヲ省略スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ船體、機關及ヒ屬具ノ検査ヲ施行シタル外國船舶ニ於テハ其ノ檢
査以後一年間ハ第一項ニ掲クルモノ、外検査ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 臨時検査ニ於テハ船舶検査法施行細則第九條ニ規定スル各號ノ區別ニ從ヒ

○船舶検査規程

検査官吏ノ必要ト認ムル部分ニ限り検査ヲ爲スヘシ

船舶検査法施行細則第六十四條及第六十六條ノ二ニ該當スル船舶ノ検査ニ於テハ旅客室、端艇、救命具、消防具其ノ他旅客ニ關スル設備ヲ検査スヘシ

第十三條 特別検査ニ於テハ船舶ヲ入渠若ハ上架セシメテ之ヲ執行ス

但シ沿海航路ノ帆船ハ据船ノ上之ヲ執行シ又湖川ノミテ航行スル船舶、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水航路ノ船舶ハ碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

汽船ノ第一回特別検査ニ於テハ速力試験ヲ執行スヘシ

汽船ノ第二回以後ノ特別検査ニ於テハ検査官吏船舶ノ現速力カ前回試験ニ依リ得タル速力ト一節以上ノ異動アリト認ムルトキハ速力試験ヲ執行スヘシ

汽船ノ第二回以後ノ特別検査ニ於テ前項ノ規定ニ依ル速力試験ヲ執行セサルトキハ試運轉ヲ執行スヘシ但第四級船ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 汽機、發動機若ハ汽鐘ヲ入換ヘタルトキハ特別検査ニ準シ之ヲ検査スヘシ但此ノ場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメサルモ妨ナシ

第十四條ノ二 特別検査ニ於テハ其ノ以前二年以内ニ特別検査ノ手續ヲ執行シタル部分ハ検査官吏ノ見込ニ依リ其ノ部分ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

定期検査ニ於テハ其ノ以前旅客船ニ在リテハ三箇月以内旅客船ニ非サルモノニ在リテハ六箇月以内ニ特別検査又ハ定期検査ノ手續ヲ執行シタル左ノ部分ハ検査官吏ノ

見込ニ依リテ其ノ部分ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

一 船體 船艙、二重底、燃料庫、甲板、外板、船底、舵、甲板機具、錨、錨鎖、

索類及ヒ裝帆裝置

二 機關 汽機、發動機、油槽、氣槽、汽鐘、補助機、管及ヒ船底ニ屬スル瓣竝ニ嘴子

第十四條ノ三 前條ノ規定ハ逋信大臣ノ認可シタル船級協會ニ於テ旅客船ニ非サル船舶ニ付此ノ規程ニ依ルト同一程度ノ検査ノ手續ヲ執行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 定期検査及ヒ臨時検査ニ於テ左ノ場合ニ該當スル船舶ハ之ヲ入渠若ハ上架

セシメ船底又ハ螺旋軸ヲ検査スヘシ但適當ノ検査證明書ヲ有スル船舶、船舶検査法

施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶、湖川ノミテ航行スル船舶及ヒ總噸數二十噸以

上ノ旅客船ヲ除キタル平水航路ノ船舶ニ於テハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルト

キニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

一 旅客汽船ニ非サル鋼船ニ於テ前回船底検査以後一年六箇月ニ達シタルトキ

二 鋼製旅客汽船ニ於テ前回船底検査以後一年ニ達シタルトキ

三 帆船及ヒ全通燒嵌黃銅卷ヲ施セル螺旋軸又ハ適當ナル船尾管注油裝置ヲ有スル汽船ニ於テ前回螺旋軸ヲ拔取リテ検査シタル以後三年ニ達シタルトキ

四 前號以外ノ船舶ニ於テ前回螺旋軸ヲ拔取リテ検査シタル以後二年ニ達シタルトキ

前項各號ニ規定スル期間ニハ三箇月ヲ超エサル範圍内ニ於テ特別検査及ヒ定期検査

○船舶検査規程

ニ要シタル時日ヲ算入セス

平水航路ノ船舶ニシテ螺旋軸ノ検査ヲ要スルモノハ碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第十六條 船舶ノ航行期間ハ前條、第一百一條ノ第三項、第一百一十一條第三項及ヒ第百

二十三條第三項ノ期限竝ニ特別検査ノ期限ヲ超過セサル様之ヲ定ムヘシ

但特別検査ノ期限ノ爲汽船ノ航行期間ヲ制限スヘキ場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ

依リ三箇月以内該特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得

第十七條 定期検査及ヒ臨時検査ニ於テ検査官吏必要ト認ムルトキハ船舶ノ入渠若ハ

上架ヲ命スルコトヲ得

第十八條 検査官吏必要ト認ムルトキハ特別検査定期検査及ヒ臨時検査ニ於テ船舶ノ

速力試験又ハ試運轉ヲ命スルコトヲ得

第十九條 検査官吏ハ船舶ノ大小、用途年齢、前検査ノ成績及ヒ現狀ニ依リ第二十四

條、第二十五條、第三十四條第一號及ヒ第三號、第三十五條、第九十六條第一號乃

至第三號及ヒ第九十七條ニ規定スル検査準備ヲ變更若ハ増減セシムルコトヲ得

沿海航路ノ帆船、平水航路ノ船舶ニ於テハ前項ノ外検査官吏ハ船舶ノ構造ニ依リ第

二十七條、第二十八條及ヒ第二十九條ニ規定スル検査準備ヲ變更若ハ増減セシムル

コトヲ得

進水後十五年未滿ノ船舶ニ於テハ検査官吏ハ第二十七條第一號及ヒ第二號第二十八

條第一號及ヒ第二號竝ニ第二十九條第一號乃至第三號ニ規定スル検査準備ヲ適當ニ

輕減スルコトヲ得

第二十條 検査官吏ハ此ノ規程ニ規定セサルモノニ付テハ航行ノ安全ヲ目的トシ船體

機關、屬具、旅客室及ヒ船員常用室竝ニ旅客及ヒ船員ニ關スル設備ノ適否ヲ認定ス

ヘシ

第二十一條 船體、機關又ハ屬具ノ構造方法此ノ規定ニ該當セサルモ検査官吏ニ於テ

之ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

本規程ニ該當セサル船體、機關又ハ屬具ノ構造ノ適否及ヒ検査方法ハ船舶ノ種類又

ハ使用ノ方法ニ依リ遞信大臣之ヲ定ム

第二十二條 削除

第二十三條 此規程ニ定ムル試験ハ検査官吏ノ適當ト認ムル試験證明書ヲ有スル船舶

ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

第二十三條ノ二 漁船ノ検査ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

第二編 船體部

第一章 検査準備

第一節 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶

第二十四條 碇泊シタル船舶ノ定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲナスヘシ

○船舶検査規程

- 一 船體ノ内外適當ノ場所ニ足場ヲ設クルコト
- 二 石炭及ヒ荷足ヲ取出シ船體ニ固著セサル物品ハ成ルヘク取片付ケ又浚水道覆板及ヒ通風路覆板ハ悉ク取除ケ浚水吸水管ノ芥除ヲ露出シ船體ノ内外部ヲ總テ掃除スルコト
- 三 主トシテ日本ト外國トノ間又ハ内地ト臺灣トノ間ニ航行スル汽船ニ於テハ食品其他雜品置場、庖厨船艙等鼠族ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠族ノ驅除ヲ行ヒ又浚水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ又飲水函ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ若ハ熱蒸汽ヲ通シテ掃除ヲ行フコト
- 四 二重底、水艙及ヒ油艙ハ出入口ヲ開キ其ノ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ檢閲ニ支障ナカラシムルコト
- 五 船體屬具ノ中取外サ、レハ檢査シ得サルモノハ之ヲ取外シ手用浚水唧筒、消防布管、手用消防唧筒、操舵、揚舵、揚貨、繫船、揚錨及ヒ揚貨ノ機具並艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、船樓開口其ノ他ノ閉鎖裝置等ハ所屬具ヲ取揃ヘ置キ錨鎖、大索、船燈、信號器、救命具其ノ他航海ノ要具ハ總テ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト
- 五ノ二 船樓間ニ船舶滿載吃水線規程第六十七條ニ規定セル船員通路ヲ設ケタル船舶ニ於テハ通路用材及ヒ附屬具ヲ取揃ヘ置クコト

- 六 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ヘ置クコト
- 七 帆船ニ於テハ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ヘキ準備ヲ爲スコト
- 八 第三十九條ニ掲クル試驗ノ準備ヲ爲スコト
- 第二十五條 入渠若ハ上架シタル船舶ノ定期檢査ニ於テハ前條ニ掲クル準備ノ外鋼船ハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ搔落シ木船及ヒ木鐵交造船ハ船底包板及毛紙ノ幾部ヲ剝去シ外板ノ現狀、填隙及ヒ固著釘ヲ檢査スルニ支障ナカラシムヘシ
- 第二十六條 特別檢査ノ準備ハ之ヲ分チテ左ノ三種ト爲ス
 - 一 第一種準備
 - 二 第二種準備
 - 三 第三種準備
- 第二十七條 第一種準備ニ於テハ第二十四條及ヒ第二十五條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ
 - 一 鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底内張板一條ツ、及ヒ彎曲部ニ於テ兩舷トモ内張板一條ツ、取離スコト
 - 木船ニ於テハ船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ船ノ長ノ五分ノ一ノ間内龍骨ト最下層梁トノ間ニ於テ内張板一條ツ、取離スコト
 - 二 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上ツ、拔取ルコト但木船ニ於テ該

敲釘カ外板ヲ貫通セサルトキハ兩舷トモ該部ノ外板一枚ツ、取離スコト
 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ固著釘カ鐵敲釘又ハ鐵
 螺釘ナルトキハ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ敲釘又ハ螺釘ヲ拔取ルコト
 三 木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板及ヒ其ノ他ノ外板ニ於テ検査官吏ノ指示
 スル部分ヨリ木釘ヲ拔取ルコト但木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張
 板若ハ外板ヲ取離スコト

三ノ二 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト

四 二重底及ヒ水艙ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト

五 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ幾分ヲ剥去スルコト
 六 舵ヲ取外スコト

七 揚錨機及ヒ操舵機具ヲ取外スコト

八 錨鎖ヲ船外ニ陳列スルコト

九 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト

第二十八條 第二種準備ニ於テハ第二十四條及ヒ第二十五條ニ掲クルモノ、外左ノ準
 備ヲ爲スヘシ

一 鋼船及木鐵交造船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ内
 張板二條乃至三條ツ、彎曲部ニ於テ兩舷トモ内張板一條ツ、取離スコト
 木船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ第一肋材ノ頭部又ハ底部肋材ヲ検査スルニ最

二

モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ノ一條ヲ取離シ船ノ首尾ヲ通
 シテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條ツ、取離シ且船ノ首尾ニ於テ兩
 舷トモ外板ヲ一枚ツ、取離スコト

木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ各層梁ノ位置ニ
 於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上ツ、拔取ルコト但木船ニ於テ該螺
 釘カ外板ヲ貫通セサルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ各層梁ノ位置ニ於テ一枚
 ツ、取離スコト

三

木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ固著釘カ鐵敲釘又ハ鐵
 螺釘ナルトキハ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ敲釘又ハ螺釘ヲ拔取ルコト
 三 木船ニ於テハ上部外板、水線部外板、彎曲部外板及ヒ其ノ他ノ外板ニ於テ檢
 査官吏ノ指示スル部分ヨリ木釘ヲ拔取ルコト但木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉ス
 ルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

三ノ二 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト

四 二重底水槽及ヒ油槽ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト

五 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ幾分ヲ剥去スルコト

六 舵ヲ取外スコト

七 揚錨機及ヒ操舵機具ヲ取外スコト

八 錨鎖ヲ船外ニ陳列スルコト

○船舶検査規程

九 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
第二十九條 第三種準備ニ於テハ第二十四條及ヒ第二十五條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ

一

鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ内張板ヲ半分取離スコト

木船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ第一肋材ノ頭部ニ於テ又ハ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板ヲ一條ツ、取離スコト且船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ船ノ長ノ五分ノ一ノ間内張板ヲ半分取離スコト

二

石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト
木船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ兩舷トモ上部外板一條ツ、船ノ首尾ニ於テ兩舷トモ外板一枚ツ、及ヒ帆船ニ於テハ「チエインボルト」ノ貫通セル外板ヲ取離スコト

三

木鐵交造船ニ於テハ彎曲部鐵板、斜帶板及ヒ肋骨ノ背面ヲ検査スル爲メ彎曲部ニ於ケル外板ヲ中央ヨリ船首片舷ニ一條中央ヨリ船尾他舷ニ於テ一條取離スコト
木船及ヒ木鐵交造船ニ於テ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ各層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以ツ、拔取ルコト但木船ニ於テ該敲釘カ外板ヲ貫通セサルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ各層梁ノ位置ニ於テ一枚ツ、取離スコト

四

木船及ヒ木鐵交造船ノ龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ固著釘カ鐵敲釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ敲釘又ハ螺釘ヲ拔取ルコト
木船ニ於テハ上部外板、水線部外板、彎曲部外板、底部外板及ヒ其ノ他ノ外板ニ於テ検査官吏ノ指示スル部分ヨリ木釘ヲ拔取ルコト但木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

五

鋼船ニ於テハ船體内外ノ全部、木鐵交造船ニ於テハ鐵部ノ全部ヲ鏽落スルコト
木船ニ於テハ上甲板梁壓材、船罫、船口ノ縁材及ヒ上部外板ノ塗料ヲ搔落スコト

鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テ上甲板梁、船罫、船口ノ縁材及ヒ上部外板カ木製ナルトキハ其ノ塗料ヲ搔落スコト

前回特別検査以後ニ於テ鏽落ヲ爲シ又ハ塗料ノ搔落ヲ爲シタルトキハ其ノ検査ヲ受ケタル部分ニ限り本號ノ規定ニ拘ハラズ鏽落又ハ搔落ヲ省略スルコトヲ得

六

鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲メ其ノ上面ノ木甲板ヲ検査官吏ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト
木船ニ於テハ梁端ヲ検査スル爲メ梁壓材ニ接スル甲板ヲ検査官吏ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

- 六ノ二 汽鑪ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト
 - 七 二重底水艙及ヒ油槽ノ水壓試験ノ準備ヲ爲スコト
 - 八 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ全部ヲ剝去スルコト但前回特別検査以後ニ於テ全部ヲ剝去シ検査ヲ受ケタルトキハ其幾分ニ止ムルコトヲ得
 - 九 舵ヲ取外スコト
 - 十 檣及ヒ斜檣ノ楔ヲ拔取ルコト但鐵製ニシテ二重張板ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 十一 揚錨機及ヒ操舵機具ノ要部ヲ取外スコト
 - 十二 錨鎖ヲ船外ニ陳列スルコト
 - 十三 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
- 第二十九條ノ二 進水後二十年以上ノ船舶ノ第三種準備ニ於テハ前條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ但シ其ノ以前本準備ニ對スル検査ヲ受ケタル部分ニ付テハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 一 檣及ヒ斜檣ノ楔ヲ拔取ルコト
 - 二 檣及ヒ斜檣用靜索ノ端末ヲ檢スル爲メ被覆物ヲ取離スコト
 - 三 鋼船ニ於テ外板衰耗ノ程度ヲ檢査スル爲メ船底ヨリ舷端ニ至ル迄外板各條ニ三箇以上ノ小孔ヲ錐揉スルコト但シ「セメント」ヲ以テ蔽被セル船底外板ハ此ノ限ニ在ラス

- ノ限ニ在ラス
- 第四 鋼船ニ於テハ舷窓直下ノ外板内面ヲ検査シ得ル様内張板ヲ取離スコト
- 第三十條 第一回特別検査ニ於テハ當該船舶カ進水後五年未滿ナルトキハ第一種準備十年未滿ナルトキハ第二種準備、十年以上ナルトキハ第三種準備ヲ爲スヘシ
- 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外左ノ準備ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 一 鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ中央部ニテ二肋骨ノ間「セメント」ヲ取離スコト
 - 二 鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ翼内龍骨及ヒ彎曲部内龍骨ノ兩側ニ於ケル内張板一枚ヲ取外スコト
 - 三 鋼船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板又ハ鐵甲板及ヒ二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル鋼板又ハ鐵板ノ厚ヲ檢スル爲メ小孔ヲ錐揉スルコト
 - 四 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船ノ中央部ニテ龍骨翼板又ハ之ニ鄰接スル外板外部腰板ニ鄰接スル外板又ハ水線ニ於ケル外板及ヒ舷側厚板ニ鄰接スル外板各一枚ヲ取離スコト
 - 五 木船ニ於テハ船ノ中央部ニテ諸内龍骨及ヒ諸縦通材ニ鄰接スル内張板及ヒ各層梁受材、梁受板又ハ副梁受板ニ鄰接スル内張板各一枚ヲ取離スコト
 - 六 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ各部ヨリ固著釘ノ若干ヲ拔取ルコト
 - 七 其ノ他船體要部ノ寸法ヲ測ルニ必要ナル準備ヲ爲スコト

第三十一條 製造中特別検査ヲ受ケタル船體ノ第二回特別検査ニ於テハ第一種準備ヲ爲スヘシ

第三十二條 第一種準備ヲ爲シテ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ次回特別検査ニ於テハ第一種準備、第二種準備ヲ爲シテ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ次回特別検査ニ於テハ第一種準備、第三種準備ヲ爲シテ特別検査ヲ受ケタル船舶ノ次回特別検査ニ於テハ第一種準備ヲ爲スヘシ

第三十三條 移民船検査及ヒ臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二節 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶

第三十四條 定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

- 一 艙内ヲ掃除シ船體ニ固著セサル物品ハ成ルヘク取片付ケ取外シ得ヘキモノハ總テ之ヲ取外シ腰當梁ト三ノ間梁トノ中央部ニ積ミ置クコト
- 二 檣、帆架、舵及ヒ傳馬ヲ除クノ外屬具ハ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト
- 三 舵ヲ引上ケ置クコト

第三十五條 特別検査ニ於テハ前條ニ掲クルモノ、外左ノ準備ヲ爲スヘシ
一 包板、外舳、除柁、投板、臺詰ノ幾分ヲ剝去リ及ヒ腰當梁其ノ他一二ノ梁端ヲ拔出シ置クコト

- 二 檣ハ船體上ニ倒シ若ハ陸上ニ揚置クコト
 - 三 船體各部ニ於テ若干ノ釘ヲ拔取り置クコト
 - 四 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
- 第三十六條 臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二章 検査

第三十七條 特別検査ニ於テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 検査官吏カ検査上必要ト認ムルトキハ外板其ノ他船體ノ要部ヲ鏽落又ハ錐揉セシメ且外板載貨門、載炭門、舷窓、支水隔壁、支水戸、車軸隧道等ノ水密試験ヲ執行スヘシ
- 二 相當水高壓力ヲ以テ二重底、水艙及ヒ油艙ノ水壓試験ヲ執行スヘシ
- 三 錨量ノ測定ヲ爲スヘシ但検査官吏ニ於テ衰耗著シカラスト認ムルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十八條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨検スヘシ但石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テ臨検スヘキ時期ハ検査官吏之ヲ定ム

- 一 龍骨ヲ据付タルトキ並ニ船首材及ヒ船尾材ヲ建立セントスルトキ
- 二 肋骨組成中及ヒ組成後建立セントスルトキ

○船舶検査規程

- 三 内龍骨、縦通材及ヒ梁ヲ取付ケントスルトキ
- 四 甲板及ヒ外板ヲ數枚張リタルトキ
- 五 船體落成ノトキ但外板ニ填絮又ハ塗料ヲ施サ、ル前
- 六 全部完成ノトキ
- 七 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第三十九條 定期検査ニ於テハ左ノ装置及ヒ屬具ノ效力ヲ試験スヘシ但シ検査官吏見込ニ依リ之ヲ斟酌スルコトヲ得

- 一 支水戸ノ開閉装置
- 二 載貨門、載炭門及ヒ舷窓ノ開鎖装置
- 三 手用浚水筒啣及飛輪啣筒
- 四 消防用送水管消防啣筒及ヒ布管
- 五 操舵、繫船、揚錨及ヒ揚貨ノ装置
- 六 操舵機具
- 七 羅針儀
- 八 端艇揚卸装置
- 九 汽笛又ハ汽角及ヒ霧中號角
- 十 信號火器及ヒ救命焰
- 十一 救命浮具

第三十九條ノ二 定期検査又ハ臨時検査ニ於テ検査官吏必要ト認ムルトキハ第三十七條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二編第三章 削除

第四章 屬具

第五十一條 削除

第五十二條 帆船ニハ檣ニ相當スル帆一揃ヲ備フヘシ

近海航路以上ノ帆船ニ於テハ前項ノ外左ノ豫備帆ヲ備フヘシ但石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ該船ノ帆ヲ組成スル帆布ノ反數ノ四分ノ一ヲ備フルトキハ豫備帆ヲ備ヘサルモ妨ナシ

横帆ヲ備ヘサル船

「フオールステースル」

—— 筒筒

横帆ヲ備フル船

「フオールステースル」又ハ「メインステール」
「フオールステール」
「トツプスル」

—— 筒筒筒

第五十三條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ノ錨、錨鎖、錨索、挽索及ヒ大索ハ左ノ規定ニ依リ第一號表、第二號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ

一 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ錨量等ヲ定ムル噸數ニ依リ之ヲ定ム

○船舶検査規程

一ノ二 鋼製帆船ニ於テハ錨量等ヲ定ムル數ニ依リ之ヲ定ム錨量等ヲ定ムル數ト
 ハ造船規程ニ定ムル船ノ深ト幅トノ和ニ其ノ長ヲ乘シタルモノヲ謂フ但船樓
 ヲ備フルモノニ在リテハ前記ノ數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ
 一ノ三 鋼製汽船ニ於テハ錨量等ヲ定ムル數ニ依リ之ヲ定ム錨量等ヲ定ムル數ト
 ハ造船規程ニ定ムル船ノ深ト幅トノ和ニ其ノ長ヲ乘シタルモノヲ謂フ但低船
 首樓又ハ低船尾樓(長船首樓ト連續セル低船尾樓ヲ除ク)ヲ備フルモノニ在リ
 テハ該樓ノ長ト高ト相乘シタル積ヲ、船首樓、船橋樓、船尾樓等ヲ備フル
 モノニ在リテハ該樓ノ長ト高ト相乘シタル積ノ四分ノ三ヲ、船ノ幅ノ二分
 ノ一ヲ超ユル長又ハ幅ヲ有スル甲板室ニ備フルモノニ在リテハ該室ノ長ト高
 ト相乘シタル積ノ二分ノ一ヲ前記ノ數ニ加算シタルモノヲ謂フ
 船樓ノ上ニ船樓又ハ甲板室ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓又ハ甲板室ニ對ス
 ル積ヲ前項ノ規定ニ從ヒ加算スヘシ
 全通船樓船及ヒ遮浪甲板船ニ在リテハ船ノ深ヲ第二甲板梁ノ船側ニ於ケル上
 面迄測リ上甲板ト第二甲板トノ間ノ部分ヲ船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ノ連續
 シタルモノト看做シテ前二項ノ規定ニ從ヒ錨量等ヲ定ムル數ヲ算定スルコト
 ヲ得
 沿海航路以下ノ汽船ニシテ滿載吃水線ヲ第二甲板以下ニ止ムルコト明カナル
 モノニ於テハ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

二

大錨ハ其ノ合量表中ノ合量ヨリ減少セサル限りハ二箇ヲ備フヘキ船舶ニ於テ
 ハ内一箇ハ百分ノ七、五以内又ハ三箇ヲ備フヘキ船舶ニ於テハ内一箇ハ百分
 ノ十五以内、一箇ハ百分ノ七、五以内表中規定ノ單量ヨリ少量ナルモ妨ナク
 又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲スモ妨ナシ
 沿海航路ノ汽船ニシテ船舶検査法施行細則第五十一條ニ掲クル一區ヲ航路定
 限ト爲スモノ及ヒ平水航路ノ汽船ニ於テハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムル
 トキハ大船ノ數ハ二箇ト爲シ且二箇ノ内一箇ノ錨量ハ百分ノ十五以内第一號
 表ニ掲クル單量ヨリ少量ナルモ妨ナク又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲ス
 モ妨ナシ
 三 錨錐ノ重量ハ錨錐ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上トス
 四 汽船ハ總噸數五十噸未滿帆船ハ近海航路以下ニ限り日本形船ヲ代用スルモ妨
 ナシ
 五 錨ハ常時使用セサルモノト雖モ取出シ易キ場所ニ備置クヘシ
 六 「スタツド」ナキ錨鎖ヲ用ウルトキハ其ノ徑ヲ適當ニ増スヘシ但鎖環ノ長ト幅
 トノ割合宜シキモノハ此ノ限ニ在ラス
 七 日本形錨ヲ代用スル汽船ニハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ
 七ノ二 日本形錨ヲ代用スル帆船ノ錨及ヒ錨索ハ錨量等ヲ定ムル噸數ニ依リ第二
 號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ

○船舶検査規程

八

一六八

第一號表及ヒ第二號表ニ於テ中錨ノ鎖及ヒ綱索ハ便宜其ノ一ヲ備ヘ或ハ相當ノ大サノ麻索、棕枙索、「マニラ」索ヲ以テ之ニ代用シ又同表中挽索ノ麻索及ヒ綱索モ便宜其ノ一ヲ備ヘ或ハ相當ノ大サノ「マニラ」索、棕枙索ヲ以テ之ニ代用スルモ妨ナシ

九

第一號表及ヒ第二號表ニ掲クル鋼索ハ第二號表ノ一二ニ依リ之ニ相當スル周ノ特別柔軟鋼索ヲ以テ代用スルモ妨ナシ

十

錨ノ重量及ヒ錨鎖ノ截面ハ表ニ掲クルモノヨリ五分ノ一減シタルトキハ不合格トス

十一

總噸數三十噸未満ノ帆船、浚渫船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除キタル平水航路ノ船舶及ヒ湖川港内ヲ限リ航行スル船舶ニ於テハ船數船量並ニ錨鎖大索等ノ徑、周及ヒ長ハ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル迄之ヲ減スルコトヲ得

十二

遠洋航路ノ船舶ニ新ニ備附クル錨（錨錐ヲ含ミタル重量百六十八封度以下ノモノヲ除ク）錨鎖及ヒ綱索ハ錨鎖索試驗規程ニ定ムル試驗ニ合格シタルモノ又ハ之ト同等ノモノナルコトヲ要ス

第五十四條

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船ノ錨及ヒ錨索ハ左ノ規定ニ依リ第三號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ

- 一 大錨ノ重量又ハ錨ノ合量ハ表ニ掲クルモノヨリ五分ノ一減シタルトキハ不合格トス

二

錨索ノ數ハ錨數ニ等シクシ大錨以外ノ錨索ハ其ノ錨量ニ應シ表中ノ大錨索ニ準シテ其ノ周ヲ定ムヘシ

三

積石數三百石未満ノ船舶ニ於テハ錨數、錨量及ヒ錨索ノ周及ヒ長ハ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル迄之ヲ減スルコトヲ得

第五十五條

手用操舵具ヲ常用トスル船舶ニ於テハ豫備操舵索一揃ヲ備フヘシ但平水航路ノ船舶及ヒ總噸數五十噸未満ノ船舶ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ豫備操舵索ヲ備ヘサルモ妨ナシ

操舵機ヲ常用トスル船舶ニ於テハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ備ヘ且豫備トシテ手用操舵具又ハ操舵機ヲ備フヘシ

小形船ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ前項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ兼用セシムルコトヲ得

操舵機ヲ有スル船舶ニ於テハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩衝裝置ヲ備ヘ且舵柄ニ連結スル部分ノ操舵鎖ノ豫備ヲ備フヘシ但平水航路ノ船舶及ヒ總噸數五百噸未満ノ船舶ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

總噸數五百噸以上ノ船舶ニ新ニ備附クル操舵鎖又ハ操舵鋼索ハ錨鎖索試驗規程ニ定ムル試驗ニ合格シタルモノ又ハ之ト同等ノモノナルコトヲ要ス

近海航路以上ノ帆船ニシテ總噸數二百噸以上ノモノハ舵ノ後部ニ應急舵鎖ヲ備フヘシ

第五十六條

總噸數百噸以上ノ旅客汽船ニ於テハ蒸汽唧筒ノ送水管ヲ上甲板ニ導キ船内各部ニ達スヘキ消防用布管ヲ備ヘ尙總噸數三百五十噸以上ノ旅客汽船ニ於テハ消防用移動唧筒一組以上ヲ備フヘシ但湖川港内ヲ限リ航行スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條

旅客船ニハ平水航路ノ船舶ヲ除クノ外其ノ噸數ニ應シ左ノ規定ニ依リ第四號表ニ照ラシ端艇ヲ備ヘ且迅速安全ニ水面ニ卸シ得ル裝置ヲ爲スヘシ

一

端艇ノ容積ハ外部ニ於テ長、幅ヲ測リ長ノ中央ニ於テ内部ノ深ヲ測リ之ヲ相乘シタルモノ、十分ノ六トス但救命艇ニ於テハ空氣箱ノ容積ヲ除クニ及ハス

二

總噸數三百噸以上ノ船舶ニ在テハ之ニ備フヘキ端艇容積ノ二分ノ一以上ハ救命艇ノ容積ト爲スコトヲ要ス

三

一人ノ容積十立方呎ノ割合ヲ以テ旅客定員及ヒ船員ノ總員數ヲ搭載シ得ヘキ端艇ノ數及ヒ容積ヲ備フルトキハ第四號表ノ艇數及ヒ容積ニ達セサルモ其ノ不足ヲ補充スルヲ要セス又船舶檢査法施行細則第六十四條及ヒ第六十六條ノ

四

規定ノ容積ト實際備フル端艇ノ容積トノ割合ニ依リ該船ニ搭載スヘキ總員ヲ定メ船員ノ員數ヲ控除シテ旅客定員ヲ定ムルコトヲ得

五

汽艇、容積五十立方呎未滿ノ普通端艇及ヒ容積百立方呎未滿ノ救命艇ハ之ヲ表中ノ容積ニ算入セサルモノトス

六

傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ容積ハ端艇ニ同ク其ノ長、幅、深ヲ測リ之ヲ相乘シタルモノ、十分ノ七トス

七

端艇ノ容積ハ端艇ノ船首材其ノ他見易キ場所ニ之ヲ表示シ又船名及ヒ船籍港ハ之ヲ端艇外部ノ見易キ場所ニ表示スヘシ

八

端艇ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ櫂及ヒ櫂架各二箇以上、放水口ノ栓、船燈斧及ヒ水箱各一箇以上ヲ備フヘシ

九

傳馬船其ノ他ノ艇舟ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ櫂、櫂架、放水口ノ栓、船燈斧、鉤竿一箇以上ヲ備フヘシ

十

救命艇ニハ各艇ニ又第四號表ニ掲クル普通端艇若ハ之ニ代用スヘキ傳馬船其ノ他ノ艇舟ニハ少クモ其ノ半數ニ各一組ノ櫂及ヒ帆ヲ備ヘ又端艇一隻ナルトキハ必ス之ヲ備フヘシ

第五十八條

救命艇ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
一 救命艇ニハ其ノ容積十立方呎ニ付少クモ一立方呎ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ若シ空氣箱ノ容積不足ナルトキハ「コルク」其ノ他ノ浮作物ヲ入レタル完全ノ浮袋ヲ以テ之ヲ補フヘシ但「コルク」ノ一、二五立方呎ハ空氣箱ノ一立方呎ト同效力トス又鋼製救命艇ニ於テハ特ニ艇體ノ重量ニ對シ空氣箱ノ容積ヲ適當ニ増スヘシ

○船舶檢査規程

三 木製救命艇ノ空氣箱ハ銅製若ハ黃銅製ト爲スヘシ但此ノ規程施行以前ノ製造ニ係リ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 鋼製救命艇ニ於テハ空氣箱ヲ亞鉛鍍鋼製ト爲スヘシ但救命艇ノ外板ト密接セシメサルトキハ空氣箱ヲ銅製又ハ黃銅製ト爲スコトヲ得又特ニ保存上及ヒ檢査上差支ナキ構造ト爲ストキハ鋼製區畫ヲ以テ空氣箱ニ代用スルコトヲ得

五 空氣箱ハ艇首、艇尾又ハ兩側ニ設置シ其ノ覆板ヲ固着スルニハ銅製若ハ黃銅製ノ螺釘ヲ用ウルヲ要ス

六 救命艇ノ周圍ニハ救命索ヲ備フヘシ

第五十九條 總噸數百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ第四號表ニ掲クル端艇ノ代リニ又總噸數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ第四號表中當該噸數ニ對スル端艇ノ容積ト一般下級ノ噸數ニ對スル端艇ノ容積トノ差ニ相當スル端艇ノ代リニ端艇釣ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命胴衣ヲ用フルコトヲ得但救命筏ノ空當スルモノトス

總噸數百噸以上ノ船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ端艇釣ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命胴衣ヲ代用スルトキハ端艇釣ヲ具フヘキ端艇ノ數ハ第四號表ニ依リ端艇釣ヲ具フヘキ端艇ノ數ハ最小艇數十箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ其ノ定數ヨ

リ二箇以内、六箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ減スルモ妨ナシ

端艇ニ代用スヘキ救命筏ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル構造ニシテ其空氣箱三立方呎ニ付一人ノ割合ヲ以テ算出シタル人員ニ對スル座席ニ充分ナル面積ヲ有シ錨一箇、錨索二十尋、權、救命索、其他必要ナル屬具ヲ備ヘ且搭載シ得ヘキ人員ヲ表示スヘシ

第六十條 旅客船ニアラサル船舶ニ於テハ平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客定員及船員各一人ニ對シ十立方呎ノ割合ヲ以テ第五十七條第一號及ヒ第四號乃至第十號ノ規定ニ從ヒ端艇ヲ備ヘ且迅速安全ニ水面ニ卸シ得ル裝置ヲ爲スヘシ但其ノ一箇ハ總噸數三百噸以上ノ近海航路ノ汽船及ヒ遠洋航路ノ船舶ニ於テハ第五十八條ニ規定セル構造ノ救命艇ト爲スコトヲ要ス

旅客船ニアラサル總噸數百噸未滿ノ船舶ニ於テハ檢査官吏ノ見込ニ依リ前項ノ規定ニ從ヒ備フヘキ端艇ノ代リニ端艇釣ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命胴衣ヲ用ウルコトヲ得但救命筏ノ空氣箱ハ三立方呎、救命浮環若ハ救命胴衣ハ各一箇ヲ以テ端艇容積ノ十立方呎若ハ十立方呎未滿ニ相當スルモノトス

前二項ノ場合ニ於テハ端艇若ハ救命筏ノ總容積及ヒ救命浮環若ハ救命胴衣ノ數ハ旅客船ニ要スルモノヨリ多キヲ要セス

第六十一條 此規定ニ依リ備フヘキ端艇ニハ揚卸ニ適當ナル端艇釣若ハ之ト同一効力ヲ有スルモノヲ備フヘシ

端艇釣ハ沿海航路以上ノ汽船ニ於テハ鋼製トナシ端艇ノ長一呎ニ付五分ノ一吋ノ割

合ニ依リ又ハ左ノ算式ニ依リ其徑ヲ定ムヘシ但傳馬船其他ノ舢舨ニ備フル端艇鈎ノ
徑ハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

$$d = \frac{L \times B \times D}{40} \left(\frac{H}{3} + S \right)$$

d ハ端艇鈎ノ徑(吋ニテ)

L ハ端艇ノ長(呎ニテ)

B ハ端艇ノ幅(呎ニテ)

D ハ端艇ノ深(呎ニテ)

H ハ端艇鈎上部支點ヨリノ高(呎ニテ)

S ハ端艇鈎上部突出ノ徑(呎ニテ)

明治三十四年一月一日以前ニ製造シタル船舶ノ端艇鈎ノ徑ハ前項ニ定メタル徑ノ五
分ノ四以上ナルトキハ之ヲ合格ト看做ス

第六十二條 消防具其ノ他ノ屬具ハ航路定限ノ種類ニ依リ第五號表ニ照ラシ之ヲ備フ
ヘシ

第六十三條 平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客船ニハ第五號表ニ掲クルモノ、外二箇以
上ノ救命浮環ヲ増備シ且救命浮環ノ總數ハ端艇ノ數ヨリ少カルヘカラス
救命浮環ハ船名ヲ記載シ上甲板ニ於テ衆人ノ認メ易ク且投入ニ便宜ナル場所ニ容易
迅速ニ取放シ得ヘキ様配置スヘシ

救命浮環ノ内少クモ二箇ハ長十五尋以上ノ索ヲ取附ケ置クヘシ

第六十四條 遠洋航路及近海航路(第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク)ノ船舶、
近海航路第一區ノ汽船及旅客帆船並沿海航路ノ旅客船ニハ旅客、船員及ヒ船員ニ非
スシテ船内ニ於テ職務ヲ行フ者一人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ救命胴衣ヲ備ヘ之ヲ容易
ニ使用シ得ヘキ様旅客室、船員常用室其ノ他適當ノ場所ニ配置シ且其ノ場所ニ明瞭
ナル標示ヲ爲スヘシ
一船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後ト雖モ検査官吏ニ於テ本令ノ規定ニ依リ救命胴衣ヲ備フルコトヲ得サル事
由アリト認メタルトキハ本令施行後遠洋航路及近海航路(第一區ノミヲ航路定限ト爲
ス場合ヲ除ク)ノ船舶ニ在リテハ三年内、近海航路第一區ノ船舶ニ在リテハ四年内、
沿海航路ノ船舶ニ在リテハ五年内ニ限り従前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第六十四條ノ二 船燈、信號器及ヒ救命具ハ船燈信號器救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ
附シタルモノヲ備ヘ且船燈ニ在リテハ其ノ船名及ヒ備附年月日ヲ記載シタル檢定證
明書ヲ船内ニ保管シ救命胴衣ニ在リテハ旅客室毎ニ其ノ著用法説明書ヲ掲ケ置クヘ
シ

但船舶検査法第十七條第三號ニ掲クル船舶ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

電氣船燈ハ検査官吏ノ適當ト認ムルモノヲ備フヘシ
第六十五條 船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 燈筒ヲ使用スル船燈ヲ備フル船舶ニ於テ船燈一種ニ付沿海航路ノ船舶ナルトキハ三箇以上、近海航路及ヒ遠洋航路ノ船舶ナルトキハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フヘシ
 - 二 船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所ニ其ノ燈光ヲ甲板上ニ發射セサル様装置スルヲ要ス
 - 三 綠紅ノ挿込硝子ヲ使用スル船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ近海航路以上ノ船舶ナルトキハ綠紅各二箇ノ豫備挿込硝子ヲ備フヘシ
 - 四 船燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面内ニ在ルコトヲ要ス
 - 五 電氣船燈ヲ常用トスル船舶ニ於テハ屬具表ノ規定ニ依リ船燈ニ在リテハ一對其ノ他ノ船燈ニ在リテハ各一箇ノミヲ要スル場合ト雖之ニ代用スヘキ油燈ヲ増備スヘシ
 - 七 船燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ船燈ハ何レモ隔板ニ適合スルモノナルヲ要ス
- 第六十六條 船燈ノ隔板ハ左ノ規定ニ從ヒ燈心ヨリ三呎以上前方ニ突出スヘキ長ニ作リ之ヲ船舷若ハ其ノ他ノ固定物ニ取附クベシ
- 一 隔板ノ縱線ハ船ノ首尾線ニ並行ナルコトヲ要ス
 - 二 隔板ニ取付クル隔障ノ外端ヨリ透鏡ノ前部ノ内縁ヲ貫キ火口ノ内縁ニ引キタル線ハ船ノ首尾線ニ並行ナルコトヲ要ス

第六十七條

- 一 燈塔ノ窓ノ幅ハ射光角度百十二度半以上ヲ照ラシ得ヘキモノナルヲ要ス
- 二 燈塔ノ窓ニハ無色透明ナル硝子ヲ使用スヘシ
- 三 燈塔ノ窓ニ使用スル硝子ハ二枚以上ノ板ヲ以テ組成スルトキハ豎線ト四十五度ノ角度ニ於テ斜ニ繼合セ其ノ棧ノ幅ハ八分ノ三吋ヲ超ユヘカラス但二箇以上ノ燈心ヲ備フル燈塔内ニ使用スルトキハ棧ノ幅ヲ増加シ且其ノ角度ヲ減少スルコトヲ得
- 四 燈塔内ニ使用スヘキ船燈ハ成規ノ光達距離ノ最小限ヨリ優等ナル光力ヲ有スルモノナルヲ要ス
- 五 燈塔ニハ隔板ト焰穂トノ位置ヲ検査シ得ヘキ爲メ徑一吋半以上ノ孔ヲ穿ツヘシ

第六十八條

汽船及ヒ機關ヲ有スル帆船ニ、音響ノ妨ナキ適當ノ場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スヘシ

第六十九條

削除

第七十條

削除

第七十一條 沿海航路以上ノ船舶ニハ其ノ航行スヘキ航路及ヒ港灣ノ海圖ヲ備フヘシ

○船舶検査規程

海圖ハ海軍水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使用スヘシ但最近ノ刊行ニアラサルモ改正ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノハ之ヲ代用スルモ妨ナシ

第五章 旅客室及ヒ船員常用室

第七十二條 船舶検査法施行細則附録旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ掲クル上層旅客甲板トハ上甲板ノ直下ノ甲板ヲ謂フ但正甲板ニ搭載シ得ヘキ旅客員數ノ三分ノ一以上ノ旅客定員ヲ上甲板ニ有スル船舶ニ於テハ上甲板ヲ上層旅客甲板ト謂フ船舶検査法施行細則附録旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ掲クル下層旅客甲板トハ上層旅客甲板ノ直下ノ甲板ヲ謂フ

第七十三條 旅客室ハ下層旅客甲板以上ニ之ヲ設クヘシ但シ下層旅客甲板下ノ甲板ハ其ノ甲板間ニ舷窓ヲ備ヘ且検査官吏ニ於テ旅客室ニ適スト認メタル場合ニ限り之ヲ旅客甲板ニ充ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ旅客定員一人ニ充ツヘキ面積ノ割合ハ下層旅客甲板ノ割合ニ依ル船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニ限り検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ艙内ノ貨物若ハ荷足ノ上ニ板及莖ヲ敷キタル場所ヲ旅客室ト爲スコトヲ得但第七十二條ニ掲クル下層旅客甲板下ニ於ケル貨物若ハ荷足ノ上ハ此ノ限リニアラス
前項ノ場合ニ於テ旅客定員一人ノ面積ノ割合ハ下層旅客甲板ノ割合ニ依ル

第七十四條 甲板間ノ高遠洋航路ノ船舶ニ於テハ六呎以上、近海航路ノ船舶ニ於テハ五呎以上、沿海航路及ヒ平水航路ノ船舶ニ於テハ四呎六吋以上ナルニアラサレハ旅客室ヲ設クルコトヲ得ス但船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨリ甲板ノ裏面迄ノ高三呎六吋以上ナルトキハ之ヲ客席ト爲スコトヲ得
第七十五條 上甲板以上ニ於ケル旅客室ノ高ハ遠洋航路ノ船舶ニ於テハ六呎以上、近海航路ノ船舶ニ於テハ四呎六吋以上、沿海航路ノ船舶ニ於テハ三呎六吋以上ナルヲ要ス

第七十六條 旅客室ノ高六呎以上ナルニアラサレハ客席ヲ二層ト爲スコトヲ得ス
第七十七條 旅客室ハ假設ノ梁上ニ之ヲ設クヘカラス又旅客甲板ハ梁ニ固着シ墮落シタルモノナルヲ要ス但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得
暴露甲板カ鋼甲板又ハ鐵甲板ニシテ其ノ直下ニ旅客室ヲ設クルトキハ該部分ニ於テ之ニ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得
前二項ノ規定ハ平水航路及ヒ沿海航路ノ船舶ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得
第七十八條 客席ニハ莖、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スヘキ敷物ヲ備フヘシ

○船舶検査規程

第七十九條

雜居客室ニハ出入口ニ通スル幅一呎十吋以上ノ通路ヲ適當ニ設クヘシ但客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長及ヒ幅十二呎以下ノ客室ニシテ他室ノ通路ニ當ラサルトキハ別ニ通路ヲ設ケサルモ妨ナシ

第八十條

左ニ掲クル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ス
一 外車汽船ノ車覆

二 船首隔壁ノ前方但船首隔壁ノ設ナキ船舶ニ於テハ正甲板上面ニ於テ船首材ノ内面ヨリ長最大船幅ノ二分ノ一ニ達スル迄ノ場所

三 幅若ハ長一呎十吋未滿ノ場所

四 汽罐室ノ周圍一呎十吋迄ノ場所但防熱裝置ヲ施シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十一條

左ニ掲クル場所ハ客室ノ面積ニ算入スヘカラス

一 通路

二 艙口ノ上面

三 艙口ノ周圍一呎十吋迄ノ場所

四 載貨門ノ前後各一呎二吋ノ所ヨリ其ノ幅ニテ艙口ノ周圍一呎十吋迄ノ場所

五 其ノ他検査官吏ニ於テ客席ニ不適當ト認ムル場所

湖川港内ヲ限リ航行スル船舶及ヒ發航港ヨリ到達港マテ直航スル船舶ニ於テハ艙口

ノ上面、周圍及ヒ載貨門ノ内側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ

艙口ヨリ載貨門ニ至ル除去面積ヲ算スルニ當リ艙口ト載貨門ノ位置竝列セサルトキハ載貨門ノ中央ヨリ艙口ノ中央ニ至ル距離ト載貨門ノ幅ニ二呎四吋ヲ加ヘタルモノト相乘シ其ノ積ヲ除去面積ト爲スヘシ

第八十二條

甲板間機關室ノ前後ニ於ケル雜居客室ノ容積ハ每室其ノ前中後ノ三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後上下ノ幅ニ前後ノ中幅及ヒ中央上下ノ幅各四倍ト中央ノ中幅十六倍トヲ加ヘ之ヲ三十六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長ヲ乘シ總面積トシ之ヨリ其ノ室内ニ於ケル蔽圍ノ場所ノ平均幅ニ長ヲ乘シタルモノヲ減シ其ノ残り面積ニ平均ノ高ヲ乘シタルモノトス

機關室ノ兩側、甲板上、其ノ他或ル一部ニ於ケル客室ノ容積ハ平均ノ幅ニ長、高ヲ乘シ若シ其ノ室内ニ蔽圍ノ場所アルトキハ其ノ長、幅、高ヲ乘シタル積ヲ減シタルモノトス

船尾斜曲ナル場所ノ容積ヲ算スルニハ其ノ長(矢)幅(弦)ノ二分ノ一以下ノ所迄ハ本條第一項若ハ第二項ニ依リ算出シ其ノ後部ハ高ノ中央ニ於テ長ヲ測リ其ノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ是大幅ト高トヲ乘シ其ノ容積ト爲スヘシ

第八十三條 甲板間機關室ノ前後ニ於ケル雜居客室ノ面積ハ每室客席ニ充ツヘキ甲板又ハ棚ノ上面ニ於テ前中後三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ニ中央ノ幅四倍ヲ加ヘ之ヲ六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長ヲ乘シ總面積トシ之ヨリ第八十一條ニ掲クル除去スヘ

○船舶検査規程

キ場所ノ面積ヲ減シタルモノトス

機關室ノ兩側、甲板其ノ他或ル一部ノ客席ハ平均ノ幅ニ長ヲ乘シ前項ニ準シ通路等ノ面積ヲ減シタルモノトス

船尾斜曲ナル場所ノ面積ヲ算スルニハ其ノ長(矢)幅(弦)ノ二分ノ一以下ノ所迄ハ本條第一項若ハ第二項ニ依リ算出シ其ノ後部ハ長ノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ最大幅ヲ乘シタルモノトス

第八十四條

旅客定員ヲ算出スルニハ第八十二條ニ依リ算出シタル旅客室容積及ヒ第八十三條ニ依リ算出シタル旅客室面積ヲ船舶ノ航路定限及ヒ客室ノ等級ニ應シ船舶

檢査法施行細則附録旅客定員算出表及臨時旅客定員算出表ニ規定スル旅客定員一人分最小容積及ヒ面積ヲ以テ除去シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數ヲ以テ該室ノ旅客定員ト爲スヘシ

檢査官吏船舶ノ復原力カ前項ノ規定ニ依リ算出シタル旅客員數ヲ搭載スルニ不充分ナリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス適當ニ旅客定員ヲ制限スヘシ

第八十五條

甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フヘシ

沿海航路以上ノ船舶ニ於テハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ハラス何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ヘキ裝置トナシ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅一呎十吋以上ノモノ一箇以上、百人未滿ナルトキハ幅三呎以上ノモノ一箇以上若ハ幅一呎

十吋以上ノモノ二箇以上又百人以上ナルトキハ五人ニ付二吋ノ割合ノ總幅ヲ有スル梯子ヲ備フヘシ

回リ梯子又ハ勾配急ニ段面狹クシテ柵欄ニ依ラサレハ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ、出入口ニ近ク梯子ヲ架シタル場合ニ於テ出入口ノ幅カ梯子ノ幅ヨリ狭キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不充分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ檢査官吏ノ適當ト認ムル幅ヲ以テ前項ノ規定ニ依ル梯子ノ幅ト看做ス

梯子ハ成ルヘク前後ノ方向ニ置キ甲板ト六十度以内ノ角度ニ据ヘ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルヘシ

船舶檢査法施行細則第六十四條ニ該當スル船舶ニ於テハ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ梯子ノ幅ハ前二項ノ規定ニ合格セサルモ妨ナシ

第八十六條

旅客室及ヒ船員常用室ニハ明取り及ヒ空氣流通ノ爲メ相當ノ窓ヲ設クヘシ

第八十七條

近海航路以上ノ船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ舷窓、出入口、輪口、天窓其ノ他甲板諸口ノ外ニ通風管ヲ上下層旅客甲板ニ各別ニ設ケ其截面ハ旅客定員一人ニ付出入口共各二平方吋半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ一倍三分ノ一ト爲スヘシ

○船舶檢査規程

面ヲ増加スヘシ又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其屈折ノ度ニ應シ各屈折ニ對シ百分ノ十六乃至三十六其ノ截面ヲ増加スヘシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通シ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合若ハ雜居客室ト他室ト空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ減少スルコトヲ得

船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニ於ケル通風管ハ検査官吏ノ見込ニ依リ第一項ノ規定ニ依ラサルモ妨ケナシ

第八十八條 船員常用室ハ其ノ船舶ノ航路制限ニ應スル旅客室ニ準シ之ヲ設クヘシ但該常用室ハ之ヲ船首隔壁ノ前方ニ設クルコトヲ得
沿海航路以下ノ船舶ニハ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムル迄船員常用室ノ積量ヲ減スルコトヲ得

第八十九條 船舶検査法施行細則第六十四條ニ該當スル船舶ニ於テ高三呎以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ有シ且完全ノ天幕ヲ備フルトキハ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノモノニ限リ上甲板ニ於テ適當ノ場所ニ限リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

航行豫定時間三時ヲ超ヘサル平水航路ノ船舶ハ上甲板又ハ其他閉塞セサル場所ニ於テ検査官吏ノ適當ト認ムル部分ニ限リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得
前二項ノ場所ハ其ノ形狀ニ從ヒ第八十三條ノ規定ニ依リ面積ヲ算出スヘシ
第八十九條ノ二 第七十三條第二項、第七十七條第一項但書、第二項但書第八十五條

第四項及第八十七條第四項ノ規定ハ船舶検査法施行細則第六十六條ノ二ノ規定ニ依リ軍隊ヲ搭載スル場合ニ準用ス

第六章 旅客及ヒ船員ニ關スル設備

第九十條 移民船ニ於テハ乙種船舶検査證書ニ掲クヘキ旅客定員五十人ニ付十八平方呎以上ノ甲板面積ヲ有シ且六呎以上ノ高ヲ有スル病室ヲ上層旅客甲板以上ニ設ケ他室ト區畫スヘシ

前項ノ病室ニハ適當ノ寢臺及ヒ必要ノ附屬品ヲ備フヘシ
第九十一條 移民船ニ於テハ乙種船舶検査證書ニ掲クヘキ旅客定員ニ對シ日本ノ港ヨリ初メテ到達スヘキ外國ノ港迄ノ航行豫定時日ノ長短ニ應シ第六號表ニ依リ食料及ヒ飲用水ヲ備フヘシ

第九十二條 旅客船ニ於テハ旅客定員及ヒ船員ヲ併セ人員大約五十人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設クヘシ但人員三百人以上若ハ沿海航路以下ノ船舶ナルトキハ検査官吏ニ於テ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

一等室用若ハ船員用ノ大便所ヲ區別シテ設クルトキハ一等室定員若ハ船員ヲ除キ其ノ殘餘ノ人員ニ對シ前項ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ
船舶検査法施行細則第六十四條ニ該當シ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ船舶ニ於テハ本條ノ規定ニ依リ特ニ大便所ヲ増備スルヲ要セス

○船舶検査規程

第九十三條 旅客船ニ於テハ上甲板又ハ上甲板上諸室ノ頂部ニテ船客ノ運動ニ適當ニシテ且安全ナル場所ヲ設クヘシ

移民船ニ於テハ乙種船舶検査證書ニ掲クヘキ旅客定員一人ニ付五平方呎ノ割合ヲ以テ前項ノ運動場ヲ設クヘシ

前項ノ場所ハ其ノ形狀ニ從ヒ第八十三條ノ規定ニ依リ面積ヲ算出スヘシ

第九十四條 旅客船ニ於テハ高三呎以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クヘシ但第三級船以下ノ船舶又ハ船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ノミヲ搭載スル船舶ニシテ検査官吏ニ於テ安全ト認ムルトキハ舷牆又ハ柵欄ノ高ヲ減スルカ若ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

柵欄ノ横棒ハ其ノ距離九吋ヲ超ユヘカラス但之ニ帆布若ハ網ヲ取附ケ其他検査官吏ニ於テ安全ト認ムル装置アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ旅客ノ危險不便ヲ感セサル位置ニ設ケ且堅牢ナル舷梯鈎ヲ備フヘシ但沿海航路以下ノ船舶ニシテ検査官吏ニ於テ必要ト認メサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ舷梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板若ハ帆布ヲ張ルヘシ

第九十五條ノ二 主トシテ熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及ヒ船員ニ對スル適當ノ防熱設備ヲ爲スヘシ

第三編 機關部

第一章 検査準備

第九十六條 定期検査ニ於テハ左ノ準備ヲ爲スヘシ

- 一 吸罎ノ彈環、滑瓣、タービン汽機ノ外筐上半、發動機ノ噴油瓣吸入瓣竝ニ排出瓣等ヲ取外シ排氣唧筒、循環唧筒、給水唧筒、冷水唧筒、注油唧筒、送油唧筒等ノ諸瓣ヲ取外シ冷氣器ヲ開キ置クコト又主軸ニ於テハ曲拐栓黃銅ヲ取外シ主軸受、中間軸、進力受臺等ノ上半及發動機ノ反轉裝置ヲ取外シ置クコト

二、機關室ノ滲水ヲ排除シ底部ヲ掃除シ泥箱ヲ開キ芥除ヲ床板上ニ取出シ蒸汽唧筒ノ各艙ニ於ケル芥除ヲ露出シ置クコト

三、正汽罐副汽罐ハ水ヲ排除シ人孔其ノ他ノ諸孔ヲ開キ火床火橋ヲ取出シ燃燒室汽部、水部、汽兜、加熱器ヲ掃除シ燃油器、安全瓣、制限瓣及ヒ正塞汽瓣ヲ取外シ置クコト

四 屬具ヲ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト

第九十七條 特別検査ニ於テハ前條ニ掲クル準備ノ外左ノ準備ヲ爲スヘシ

- 一 補助汽機ヲ開キ置クコト
- 二 推進器ヲ取外シ螺旋軸ヲ拔取り置キ瓣、嘴子ニシテ汽機、汽罐ノ要部ニ屬シ

○船舶検査規程

- 若ハ水線以下ニ於テ船外ニ通スルモノヲ開放シ置クコト
 - 三 吸罎及ヒ接續錐ヲ取外シ置クコト
 - 四 正汽管ノ包被竝ニ機關室ヨリ各輪ニ通スル諸管ノ包被ヲ取除キ置クコト
 - 五 「タービン」汽機ノ「ロートル」ヲ取出シ置クコト
 - 六 「キヤード・タービン」汽機ノ減速齒車裝置ノ外筐上半ヲ取外シ置クコト
 - 七 發動機ノ空氣壓搾機及ヒ氣槽ヲ開キ置クコト
 - 八 其ノ他検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト
- 第九十八條 移民船検査及ヒ臨時検査ニ於テハ検査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二章 汽機及發動機

- 第九十九條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ
- 一 汽笛、氣笛「タービン」汽機ノ外筐及「ホ井ール」冷汽器、唧筒、船尾管等ヲ鑄造シタルトキ竝ニ仕上ヲ了リタルトキ
 - 二 諸軸、諸錐及ヒ「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ粗削ヲ爲シタルトキ
 - 三 「ギヤード・タービン」汽機ノ減速齒車ヲ削リタルトキ
 - 四 諸軸、汽笛及ヒ氣笛ノ中心線ヲ定ムルトキ竝ニ「タービン」汽機ノ「ロートル」

及ヒ減速齒車ノ組立ヲ了リタルトキ

- 五 發動機ノ氣槽ハ各部ノ突縁又ハ鍛接ヲ爲シタルトキ竝ニ燒鈍ヲ行ヒタルトキ
 - 六 發動機ノ氣槽各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ竝ニ全體ノ構造ヲ了リタルトキ
 - 七 汽機及ヒ發動機ヲ船内ニ据附クルトキ
 - 八 水壓試驗執行ノトキ
 - 九 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ
- 第百條 検査官吏必要ト認ムルトキハ汽機及發動機ノ要部ヲ錐揉セシムヘシ
- 第百一條 汽笛及ヒ氣笛ハ船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキ若ハ大修繕ヲ行ヒタルトキ又ハ其ノ現狀ニ依リ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ
- 一 單式汽機ニ於テハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍
 - 二 聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ
 - 三 聯成汽機ニ於テハ高壓汽笛ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタル者中壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、七五ヲ乘シタルモノ、低壓汽笛ハ最大汽壓ニ〇、三

ヲ乘シタルモノ

- 四 聯成汽機ニ於テハ高壓汽管ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、第一中壓汽管ハ最大汽壓、第二中壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ、低壓汽管ハ最大汽壓ニ〇、二五ヲ乘シタルモノ
- 五 「ヂーゼル」式發動機ノ汽管及ヒ氣管蓋ハ最大汽壓ノ二倍、水包室ハ每平方吋五十封度

瓣匣、收汽室、收汽管、汽包室、汽管蓋及ヒ瓣匣蓋ハ其ノ附屬スル汽管ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スル場合ヲ除ク外検査官吏ハ相當ト認ムル汽壓力ヲ以テ試験ヲ施行シ前二項ノ試験ニ代フルコトヲ得

第一百條ノ二 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ「タービン」汽機ノ外筐ハ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 二聯成「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於テハ其ノ外筐一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、二箇ヨリ成ルトキハ前部ノ外筐ハ最大汽壓ノ三分ノ二、低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ初壓力ノ一倍半後部ノ外筐ハ每平方吋三十封度

- 二 三聯成「タービン」汽機ノ高壓外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、中壓外筐ハ初壓力ノ一倍半、低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ初壓力ノ一倍半後部ノ外筐ハ每平方吋三十封度

- 三 「インバルス」階段ヲ備フル「タービン」汽機ノ前部配汽室ハ最大汽壓ノ一倍半各膨脹階段ハ初壓力ノ一倍半但每平方吋三十封度ヲ下ルコトヲ得ス

- 四 後退「タービン」汽機ニシテ前各號ニ依リ難キモノ、外筐ハ最大汽壓高壓「タービン」汽機ニ於テ減少シタル汽壓ヲ使用シ且該汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ適當ナル逃出口ヲ備フルモノニ於テハ最大汽壓ニ代フルニ初壓力ヲ以テスルコトヲ得

「タービン」汽機ニ附屬スル汽管、瓣嘴子等ハ其ノ附屬スル外筐ニ於ケルト同一ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 第一百條ノ三 發動機ノ氣槽及ヒ油槽ハ特別検査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ
 - 一 新ニ使用スル氣槽ハ鉸釘接合ノモノニ在リテハ每平方吋ノ最大汽壓三百封度以上ナルトキハ之ニ二百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、釘鉸接合以外ノモノニ在リテハ最大汽壓ノ二倍
 - 二 既ニ使用シタル氣槽ハ鉸釘接合ノモノニ在リテハ每平方吋ノ最大汽壓三百封